

**平成27年度**

**教育委員会の権限に属する  
事務の管理及び執行の状況の  
点検・評価報告書**

**(平成26年度事業)**



**平成27年8月  
桑名市教育委員会**



## 目 次

	頁
はじめに	1
教育委員会の活動について	2
教育委員会委員（平成 27 年 3 月末時点）	2
教育委員会開催状況	2
教育委員会教育施設視察状況	5
教育委員会 その他の活動	5
平成 26 年度 施策評価シート	6
豊かな人間性を育む人づくり	
確かな学力の育成	7
豊かな心と健やかな体を育む教育	9
開かれた特色ある学校づくり	11
就学前教育の充実	13
安全で快適な教育環境の整備	15
青少年育成活動の充実	17
青少年の非行防止・保護体制の充実	19
生涯学習を通しての自己実現	
生涯学習推進体制の整備	21
スポーツ活動の充実	23
スポーツ組織の育成と充実	25
個性豊かな文化の創造	
文化・芸術活動の推進	27
文化財の調査・保存	29
文化財の活用	31
人権が尊重されるまちづくりの推進	
人権・同和教育内容の充実	33
人権・同和教育推進体制の充実	35
事務事業一覧	37
総括意見	53
個別の意見	54

## はじめに

教育委員会制度は、合議制の教育委員会の決定に基づいて、教育長及び事務局が広範かつ専門的に教育行政事務を執行するものであることから、教育行政が適切に執行されているか否か、教育委員会自らがチェックする必要性がある。

このことから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されている。

教育委員会では、桑名市総合計画における「こころ豊かな文化の薫るまちづくり 豊かな人間性を育む人づくり・生涯学習を通しての自己実現・個性豊かな文化の創造」などの実現に向け、平成 26 年度教育委員会の施策における主な事業について自ら評価を行うとともに、出口 壽氏（暁学園理事）、高木 直人氏（名古屋学院大学商学部准教授）、伊藤 綱朗氏（桑名市 P T A 連合会）の 3 名の方から、事務の課題や今後の改善方策等についてのご意見をいただいた。

なお、点検・評価については、中長期的な施策展開や P D C A のマネジメントサイクルの観点から、平成 25 年度から年度終了後の事後評価方式を採用している。



## 教育委員会の活動について

### 教育委員会委員（平成27年3月末時点）

委員長	大橋 昌宏
委員長職務代理者	米田 真理（平成27年1月20日委員長職務代理者に就任）
委員	松岡 守
委員	稲垣 陽子（平成27年1月20日教育委員 就任）
教育長	伊藤 茂一

### 教育委員会開催状況

会議・開催日	審議事項・協議事項
4月定例会 4月24日（木）	<p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力・教師力向上推進事業について</li> <li>・二学期制について</li> </ul>
5月定例会 5月22日（木）	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第30号 桑名市教育委員会の権限に属する事務の点検評価実施要綱の制定について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の定着と向上について</li> </ul>
6月定例会 6月5日（木）	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第31号 桑名市立幼稚園保育料減免措置要綱の一部改正について</li> <li>・議案第32号 桑名市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について</li> <li>・議案第33号 平成26年6月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の点検評価について</li> <li>・全国山・鉾・屋台連合会総会in桑名大会について</li> <li>・一の鳥居建て替えに係る支援について</li> </ul>
7月定例会 7月24日（木）	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第34号 平成27年度使用 小学校教科書の採択について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園再編に伴う対応について</li> <li>・教育委員会事務の点検・評価について</li> <li>・教育委員会の組織改正について</li> <li>・平成27年度園児募集について</li> <li>・第1回木曾三川ウルトラマラソンについて</li> </ul>
8月定例会 8月29日（金）	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第35号 桑名市いじめ問題対策連絡協議会要綱の制定について</li> <li>・議案第36号 学校等の使用による個人演説会開催のために必要な施設の公営程度</li> </ul>

	及び候補者が納付すべき費用の額の一部改正について
9月定例会 9月30日(火)	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第37号 桑名市立学校施設の開放に関する規則の一部改正について</li> <li>・議案第38号 桑名市教育委員会関係事業補助金等交付要綱の一部改正について</li> <li>・議案第39号 長島地区幼稚園通園バス利用要綱の制定について</li> <li>・議案第40号 桑名市体育施設条例の一部を改正する条例の一部の施行期日を定める規則の制定について</li> <li>・議案第41号 桑名市多目的体育施設等規則の一部改正について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桑名市いじめ問題専門委員会への諮問について</li> <li>・生涯学習、スポーツ振興、文化芸術施策に関する組織の改正について</li> </ul>
10月定例会 10月21日(火)	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第42号 平成26年12月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習、スポーツ振興、文化芸術施策に関する組織の改正について</li> <li>・平成27年度以降の「土曜日を活用した教育活動」の実施について</li> </ul>
11月定例会 12月2日(火)	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第43号 平成26年12月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について</li> <li>・議案第44号 平成27年度 教職員人事異動基本方針等について</li> <li>・議案第45号 桑名市における今後の学期制について</li> <li>・議案第46号 桑名の千羽鶴技術保持者の認定について</li> <li>・議案第47号 平成27年度以降の「土曜日を活用した教育活動」実施要項の策定について</li> <li>・議案第48号 条例制定に関する意見聴取について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桑名市人権教育基本方針について</li> </ul>
12月定例会 12月22日(月)	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第49号 平成27年3月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について</li> <li>・議案第50号 桑名市人権教育基本方針について</li> </ul>
1月定例会 1月20日(火)	<p>選挙</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桑名市教育委員会委員長の選挙について</li> <li>・桑名市教育委員会委員長職務代理者の指定について</li> </ul> <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第1号 桑名市立幼稚園預かり保育実施要綱について</li> </ul>
2月定例会 2月9日(月)	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第2号 平成27年3月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における課題対応について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校卒業式告辞（案）について</li> </ul>
<p>臨時会 2月19日（木）</p>	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第3号 桑名市教育委員会会議規則の全部改正について</li> <li>・議案第4号 桑名市教育委員会傍聴人規則の一部改正について</li> <li>・議案第5号 桑名市教育委員会教育長事務委任規則の一部改正について</li> <li>・議案第6号 桑名市教育委員会の権限に属する事務の点検評価実施要綱の一部改正について</li> <li>・議案第7号 桑名石取祭保存伝承委員会要綱等の一部改正について （桑名市ヒメタイコウチ保護活動委員会要綱の一部改正・桑名市子ども読書活動推進協議会要綱の一部改正・多度のイヌナシ自生地保護活動委員会要綱の一部改正を含む）</li> <li>・議案第8号 桑名市社会教育委員の会議規則等の一部改正について （桑名市スポーツ推進委員規則の一部改正・桑名市体育館規則の一部改正・桑名市野球場規則の一部改正・桑名市テニスコート規則の一部改正・桑名市プール規則の一部改正・桑名市多目的体育施設等規則の一部改正・桑名市文化財保護審議会規則の一部改正・ながしま遊館処務規則の一部改正を含む）</li> <li>・議案第9号 桑名市スポーツ競技全国大会等出場者に対する激励金支給要綱の一部改正について</li> <li>・議案第10号 教職員人事について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の保育料について</li> <li>・学校の適正規模、適正配置について</li> </ul>
<p>3月定例会 3月24日（火）</p>	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第11号 桑名市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の制定について</li> <li>・議案第12号 桑名市教育委員会公告式規則の全部改正について</li> <li>・議案第13号 桑名市教育委員会事務局内部組織規則の一部改正について</li> <li>・議案第14号 桑名市教育委員会関係事業補助金等交付要綱の一部改正について</li> <li>・議案第15号 桑名市教育委員会公印規程の一部改正について</li> <li>・議案第16号 桑名市教育委員会職務権限規程の一部改正について</li> <li>・議案第17号 桑名市教育委員会文書管理規程の一部改正について</li> <li>・議案第18号 桑名市立幼稚園利用者負担額に関する規則の制定について</li> <li>・議案第19号 桑名市子どものための教育に関する利用者負担額に関する規則の制定について</li> <li>・議案第20号 桑名市立幼稚園保育料徴収規則の廃止について</li> <li>・議案第21号 桑名市立幼稚園保育料減免措置要綱の廃止について</li> <li>・議案第22号 桑名市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第23号 桑名市立小学校及び中学校の就学に関する規則の一部改正について</li> <li>・議案第24号 桑名市小学校給食調理業務等委託化に関する調査検討委員会要綱の一部改正について</li> <li>・議案第25号 桑名市小学校給食調理業務等委託業者選定委員会要綱の廃止について</li> <li>・議案第26号 桑名市放課後子ども総合プラン運営委員会要綱の制定について</li> <li>・議案第27号 桑名市放課後子どもプラン運営委員会要綱の廃止について</li> </ul> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小・中学校における課題対応について</li> <li>・学校の適正規模、適正配置について</li> <li>・公民館の活用方法と今後のあり方について</li> </ul>
--	---

定例会12回 臨時会 1回

### 教育委員会教育施設視察状況

視察日	施設名	内容
平成26年4月24日(木)	大成小学校	初任教員授業参観
平成26年9月30日(火)	明正中学校	授業参観
平成26年10月21日(火)	伊曾島小学校	授業参観、通学路
平成27年1月28日(水)	城東小学校	くわなっ子給食試食

### 教育委員会 その他の活動

活動日	内 容
平成26年5月22日(木)	市長と教育委員会委員の懇談会
平成26年10月2日(木)	中津川市視察(学校規模等の適正化) 恵那市視察(教育を礎にしたまちづくり)
平成26年10月30日(木)	教育研究推進校発表(立教幼稚園・藤が丘幼稚園) 三重の教育談義(三重の教育のあり方をともに考える)
平成26年11月7日(金)	教育研究推進校発表(正和中学校)
平成26年11月28日(金)	教育研究推進校発表(多度青葉小学校)
平成26年12月2日(火)	市長と教育委員会委員の懇談会
平成27年2月9日(月)	市長と教育委員会委員の懇談会



# 平成 26 年度 施策評価シート

- ・確かな学力の育成
- ・豊かな心と健やかな体を育む教育
- ・開かれた特色ある学校づくり
- ・就学前教育の充実
- ・安全で快適な教育環境の整備
- ・青少年育成活動の充実
- ・青少年の非行防止・保護体制の充実
- ・生涯学習推進体制の整備
- ・スポーツ活動の充実
- ・スポーツ組織の育成と充実
- ・文化・芸術活動の推進
- ・文化財の調査・保存
- ・文化財の活用
- ・人権・同和教育内容の充実
- ・人権・同和教育推進体制の充実

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

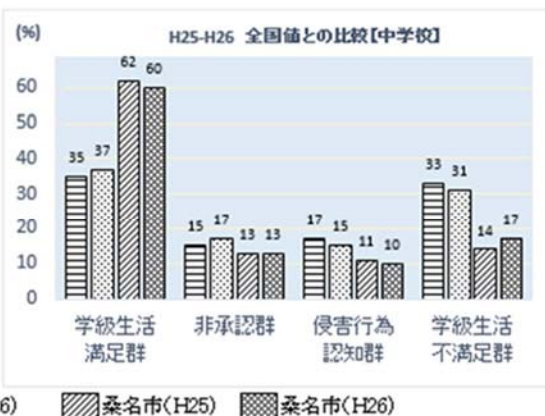
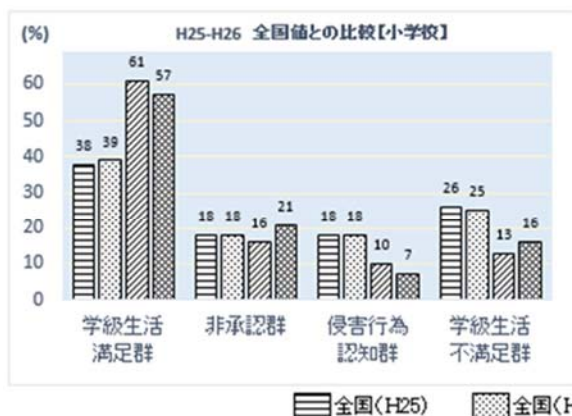
学校教育課・指導課

## 1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	学校教育
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力を育む教育活動が行われています。</li> <li>・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。</li> <li>・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。</li> </ul>
基本事業	確かな学力の育成

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>個に応じたきめ細かな指導が可能となるように人的配置を行い、少人数指導等ができる環境づくりを進めている。また、教員が児童生徒と向き合い、その実態や思いを把握することを大切にした授業づくり、学級づくりを進めることにより、確かな学力の定着と向上が図れるよう、指導主事訪問等において学校を支援している。</p> <p>さらに、確かな学力の育成のためには、教員の力量アップが不可欠であることから、教員を対象とした指導法や授業法の改善につながる各種研修会の実施、一人ひとりの教育的ニーズに対応するための特別支援教育の推進に関わる研修の充実に努めている。</p>
法令・制度の変更	平成 21 年度から幼稚園教育要領が、23 年度から小学校学習指導要領が、24 年度から中学校学習指導要領が完全実施された。
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>個に応じたきめ細かな指導ができるように、過密度の高い学級を有する学校などを中心に人的配置をしてきた。</p> <p>児童生徒の実態把握のために学級満足度調査を年 2 回実施してきた。平成 26 年度は、分析結果を授業づくりや学級経営の改善に活用するよう、大阪教育大学水野治久教授から指導・助言をいただき、各校を支援した。子どもの良さを伸ばし、学ぶ楽しさを感じられる学級・学校づくり、学ぶ意欲、学力の向上をめざす取組を進めてきた。</p> <p>教員研修においては、教員のキャリアステージに応じた研修や、今日的教育課題に応じた研修を実施してきた。とりわけ、特別支援教育については、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任等を対象にした研修会を開催するなど、特別支援教育推進校の指定とともに、教員の力量アップに努めてきた。</p>



### 3 成果と分析

指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
			H24	H25	H26	
全国学力調査における授業評価	算数、数学の授業が「分かる」と回答した児童生徒の割合	85.0	75.8	76.3	76.8	%
学級満足度調査	市全体の満足群に位置する児童生徒の割合	80.0	-	61.1	58.5	%
夏期教職員研修講座参加回数	夏期教職員研修講座における一人あたりの参加回数	1.5	1.2	1.3	1.1	回/人
特別支援教育講座の参加人数	夏期教員研修講座のうち特別支援教育講座への参加人数	100	137	129	85	人

#### 指標の考え方

算数・数学はつまずきやすく、積み上げの学習内容であることから、授業の分かりやすさを指標とした。学級生活の満足度が学習意欲の向上につながることから、満足群に位置する児童生徒の割合を指標とした。授業の分かりやすさは、教員の授業力・指導力に負うところが大きいことから、研修参加回数を指標とした。特別支援教育においても教員の力量が重要であることから、研修の参加人数を指標とした。

#### 指標の分析

国との比較においては、3年続けて数ポイント高い数値である。満足群に位置する児童生徒の割合は全国値（38%）に比べ高いが、実績がやや減少したことから、更なる取組の充実が必要である。参加実績はほぼ横ばいであるが、講座後のアンケートで「役に立った」と答える割合は毎年95%以上を保っていることから、夏期研修講座は引き続き充実している。特別支援教育において、一定の理解が得られるようになったことから、参加者が減少したと推測する。しかし、特別支援を要する児童生徒の増加・多様化といった現状に鑑みると、今後も特別支援教育講座を継続していかなければならない。

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>個に応じたきめ細かな指導のための人的配置により、学習のつまずきへの速やかな対応や児童生徒の学習意欲の向上につなげることができたが、より成果を上げるために配置された教員と学級担任との連携をさらに充実させる必要がある。</p> <p>学級満足度調査の結果分析により、客観的な子どもの状況が明らかになり、指導や支援が充実する中、学習意欲も向上している一方で、不満足群等の支援を要する群に位置する子どもは横ばいである。現状を大きく改善する実践を推進し、校内及び市全体で共有することが必要である。</p> <p>夏期教職員研修講座において、講座による参加人数の偏りは解消していない。</p>
今後の展開	<p>国、県の施策を踏まえながら、引き続き、個に応じたきめ細かな指導のための人的配置を行うとともに、配置された教員と学級担任との連携がより丁寧に行われていくよう研究していく。</p> <p>学級満足度調査については、全市的な実施を取り止め、実践推進校による分析結果を活用した多様な指導方法や取組の研究を推進し、市内全体にその成果を還元していく。</p> <p>教員研修においては、今後も今日的教育課題や教員のニーズを把握して、教員に必要な研修を実施していく。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

学校教育課・指導課

## 1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単 位 施 策	学校教育
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力を育む教育活動が行われています。</li> <li>・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。</li> <li>・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。</li> </ul>
基 本 事 業	豊かな心と健やかな体を育む教育

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>各学校では道徳教育や体験活動などの充実を図り、豊かな人間性の育成に努めている。また、子ども達の学校生活の状況を常に把握し、子ども達同士のつながりや居場所のある環境を整え、心身ともに健康な生活を営む態度を育てている。</p> <p>教育相談については、県事業によるスクールカウンセラーの配置だけでなく、市独自に不安や悩みを抱える子どもや保護者に向けた、臨床心理士などによる相談体制を整えるとともに、小学校には心の教室相談員を配置している。</p> <p>また、食育基本法の制定に基づき、各学校・園の食育が充実するよう支援、取組を進めている。</p>
法令・制度の変更	平成 21 年度から幼稚園教育要領が、23 年度から小学校学習指導要領が、24 年度から中学校学習指導要領が完全実施された。
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>道徳教育の推進については、人権教育の推進とも連携を持たせながら、指導主事の訪問等を中心に、各校・園への指導、支援の充実を図ってきた。</p> <p>教育相談においては、認定臨床心理療法士、認定臨床心理カウンセラー、特別支援教育士等による相談枠を設け、相談内容の多様化に対応している。小学校では、子どもの不安や悩みの多様化・深刻化に対応するため、平成 26 年度、心の教室相談員配置時間分配基準の見直しを図り、適切かつ早期に対応できる体制に改めた。</p> <p>子ども達が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、各学校において栄養教諭を中心に食育の充実にも努めるとともに、学習活動の中で、地元生産者等の招聘や生産現場の見学等を行った。また、学校における食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、地場産物・郷土の食材の提供を図ってきた。一方、教職員の食育指導の力量向上のために研修講座を開催した。</p>

### 【いじめをなくす取組】



大成小学校  
いじめゼロ集会



成徳中学校区  
いじめゼロ運動強化週間

### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
①	教育相談の利用	開設した相談時間のうち、実際に利用した相談時間の割合	80.0	78.0	64.8	60.8	%
	心の教室相談員の活用	1校あたりの年間相談件数	150	134	106	104	件
	食育研修講座への参加	食育研修講座の参加人数	72	81	84	41	人

#### 指標の考え方

教育相談が充実すれば、開設時間に対する実際に利用した相談時間の割合が高まると考え、指標とした。いつでも相談を受けられる環境を用意するために、概ね80%台で推移させたい。

心の教室相談員の活用の充実は、年間相談件数に表れると考え、指標とした。

食育の推進には、教員の食育に関する指導力に負うところが大きいことから、教職員の食育指導向上のための研修講座の参加人数を指標とした。

#### 指標の分析

平成25年度から三重県教育委員会によるスクールカウンセラーの小学校への配置が大幅に増え（24年度：15校1,978時間、25年度：31校3,024時間、26年度：35校3,137時間）、各校の教育相談体制の充実が図られてきた。このことから、教育相談利用率や小学校の心の教室相談員の相談件数が下がったと考えられる。

食育講座への参加は、各学校から2名程度（72名）の参加があることが望ましいと考える。平成26年度は講座を初任者研修会の中に位置づけ、対象を初任者に限定して基礎的な研修として実施した。このため、参加人数は前年度より減少しているが、教職員全体としての食育に関する指導力は底上げができたと考える。

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>核家族化が進み、地域の教育力が低下している中、人間関係の希薄化は子ども達の間においても進んでおり、相談内容も多様化している。各学校では、まずは相談しやすい心の教室相談員や教育相談担当者が相談の窓口となり、多様化された相談に対して、早期に対応し、適切な相談場所の振り分けができる力量が不可欠である。</p> <p>地元生産者等の招聘の活用においては、学校の要請が少ない場合や、学校の要請に十分応えられない状況がある。食育の学習については、まだまだ栄養教諭頼りの傾向が強い。</p>
今後の展開	<p>教育相談の多様化については、内容に応じて相談窓口の調整や関係機関との連携を図っていく。</p> <p>スクールカウンセラーや心の教室相談員等の適切な活用が進められるように教育相談担当者等の研修を充実させるとともに、心の教室相談員の力量を高める研修を実施するなど、学校としての教育相談機能を高めていく。</p> <p>食育の推進については、地元生産者における新たな人材発掘や更なる活用を図るとともに、食育の学習については栄養教諭を中心としながらも、教員全体の指導力向上を図る。</p>



# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

学校教育課・指導課

## 1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単 位 施 策	学校教育
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力を育む教育活動が行われています。</li> <li>・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。</li> <li>・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。</li> </ul>
基 本 事 業	開かれた特色ある学校づくり

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>保護者や地域住民の方々に「スクールサポーター」として登録いただき、子ども達の見守りをはじめ、教育活動における地域の特色を活かした様々な支援をいただいている。</p> <p>民生委員や自治会連合会役員などの地域の方々に各学校・園の「学校評議員」となっただき、学校・園運営についてのご意見をうかがっている。</p> <p>学校自己評価の客観性・透明性を高めるために保護者や「学校評議員」などによる学校関係者評価を実施している。</p> <p>「特色ある学校・園づくり」を推進するための事業費については、各学校・園の事業実績及び事業計画などについて校長・園長から聞き取りを行い、魅力ある取組に対して重点的に予算を配当している。</p>
法令・制度の変更	平成 21 年度から幼稚園教育要領が、23 年度から小学校学習指導要領が、24 年度から中学校学習指導要領が完全実施された。
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>スクールサポーターには、地域の産業や伝統文化など地域の特色にあわせて各学校・園における教育活動で様々な支援をいただいた。</p> <p>学校評議員については、全体研修会を設けて見識を広めていただく機会を設けた。平成 26 年度は、城東小学校の実践発表のほか、三重県教育委員会の開かれた学校づくりサポーターを招いて先進事例を紹介いただいた。各学校においては、学校評議員会を持つなどして、今日的な教育課題や学校の課題等について意見をいただいた。</p> <p>各学校・園においては、「特色ある学校・園づくり」を推進するための事業費を活用し、伝統的な取組や、子どもの実態をふまえた新たな取組を実施するなど、それぞれに特色ある学校づくりが行われている。</p>

【多度青葉小学校】



竹細工体験  
(青葉小フェスティバル)

【伊曾島小学校】



伊曾島朝市

### 3 成果と分析

指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
			H24	H25	H26	
スクールサポーター登録者	桑名市全体のスクールサポーター登録人数	1,000	928	940	976	人
学校評議員からの意見聴取回数	桑名市全体の学校評議員会の延べ開催件数	120	138	113	103	回
指標の考え方						
<p>地域に開かれた特色ある学校・園であるか否かは、学校・園の教育実践に地域の方がどれだけ多く関わっていただいているにかよることから、スクールサポーター登録者を指標とした。</p> <p>学校・園が進むべき方向性について地域の願いや思いをどれだけ受け止めているかは、地域の方々の意見をいかに多くうかがっているにかよることから、学校評議員からの意見聴取回数を指標とした。</p>						
指標の分析						
<p>スクールサポーターの登録数は、やや増加傾向にあり、地域との連携が定着してきたと考えられる。</p> <p>学校評議員会の開催件数は、各校・園で年間3回程度、概ね計画どおり開催されているが、やや減少傾向にある。</p>						

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>地域に根ざした活力ある学校・園を目指すためには、今後もスクールサポーターをはじめ、地域の方々から様々な形で学校・園教育の支援をいただく必要がある。</p> <p>子ども達に経験させたい内容やその支援方法について、スクールサポーターの思いや考えと、学校のニーズが必ずしも一致しないことがある。</p> <p>学校評議員会については、定期的な開催の中での報告的な内容に留まることなく、適切な時期に、学校・園が抱える課題について積極的に意見をいただく機会としなければならない。</p>
今後の展開	<p>「地域社会全体で子どもを育てる」という意識をさらに高めるため、スクールサポーター活動を継続し、地域の産業や文化に関わる多様な教育活動を推進する。</p> <p>今後も学校評議員をはじめ、保護者や地域の方々から意見をうかがい、学校改善に活かしていく。</p> <p>地域や保護者が、子ども達に対してどのような願いを持っているかをよりの確に捉える方法や、学校・園が地域にどのような支援を求めているか適切に発信する方法について研究していく。また、「特色ある学校・園づくり」を推進するための事業費についても、具体的な魅力ある取組に対して追加配分するなど、事業促進のための工夫を図っていく。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

学校・園再編推進室

## 1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単 位 施 策	学校教育
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力を育む教育活動が行われています。</li> <li>・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。</li> <li>・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。</li> </ul>
基 本 事 業	就学前教育の充実

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>公立・私立、幼稚園・保育園・保育所の枠を超えた研修や実践交流を通して、幼稚園教諭や保育士が、教育・保育のあり方について見識を深めている。加えて、公立幼稚園の再編、公立・私立の共存などの課題に取り組ながら、本市就学前教育のキャッチフレーズである「みんながつながり愛、一人ひとりの根っこを育てます」を目指し、就学前教育の充実に向けた取組を進めている。</p>
法令・制度の変更	<p>平成26年 9月 桑名市長島地区幼稚園通園バス利用要綱の制定                  平成26年12月 桑名市立幼稚園条例の改正                  平成27年 1月 桑名市立幼稚園預かり保育実施要綱の制定</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>私立幼稚園・保育園、公立幼稚園・保育所の教諭や保育士を対象とした「乳幼児教育推進協議会研修会」を実施し、教育・保育を取り巻く今日的教育課題について、年5回の研修講座（教育講演会・実技講習会・公開保育）のほか、実際の保育の様子を参観して研修を行う実践交流会を開催している。</p> <p>公立幼稚園の再編では、子ども達の社会性を育むための望ましい集団規模の確保を目指し、「桑名市就学前施設再編実施計画」に基づき、平成27年度再編開始に向けて準備を進めた。再編後、新たに始まる「預かり保育」や「長島地区のバス運行」について検討し、要綱を作成した。バス運行にあたり、バスリース及び運行管理委託など諸準備を行った。また、ハード面では保護者駐車場の確保や施設改修等整備を行い、ソフト面では園改名等に伴う条例の変更等を行った。</p>



### 【教育講演会】

「乳幼児期の発達をとらえた保育～子どもたちの『言葉にならない言葉を受けとめる』～」の様子



### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
	乳幼児教育推進協議会研修会への参加	研修講座・実践交流研修会への参加者数	420	392	359	369	人
指標の考え方							
<p>就学前教育に携わる幼稚園教諭や保育士等が、情報の交換や共有することができる研修・交流の機会を増やすことが、保育者の資質を向上させ、就学前教育の充実につながっていくことから「乳幼児教育推進協議会研修会への参加」を指標とした。</p>							
指標の分析							
<p>「乳幼児教育推進協議会研修会への参加者数」は、昨年より若干増加した。「発達に関する勉強がしたい」という保育者のニーズが高かったため、その分野で著名な講師を迎えて研修を行った。26年度は、0～2歳児の発達について学び、27年度は3～5歳の発達についての研修を予定している。連続で学べる講座ということもあり教育講演会は特に参加人数が多かった。</p>							

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>研修会については、より多くの方が参加できるよう、現場の先生方のニーズをつかみ、どのように案内していくか、引き続き工夫が必要である。公立・私立、幼稚園・保育園・保育所いずれにもニーズが高く、お互いを学び合える内容にしていく必要がある。</p> <p>公立幼稚園の再編については、預かり保育や長島地区のバス運行のあり方などを検討してきたが、今後は、実際に行っていく中で生じる課題をしっかりと把握し、見直しを行っていく。また、28年度の開園・閉園に向けて、園運営や教育内容などのソフト面での体制整備と、ハード面の整備を進める必要がある。</p>
今後の展開	<p>【研修会の開催】</p> <p>桑名市の就学前教育の充実のため、今後も、引き続き研修会を進めていく。講座の内容等については、アンケートを実施するなどしてニーズに沿った講座を計画し、参加意欲の増進と参加者の増加を目指す。</p> <p>【公立幼稚園の再編】</p> <p>再編の効果について検証していくとともに、再編後新たに生じた課題を丁寧に解決し、今後の再編へと活かしていく。また、次年度の再編に向けてハード・ソフト両面の整備を進める。それ以降の再編については、認定こども園の設置の有無を含む市の方針と国等の動向を注視しつつ、適切な再編を進めていく。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

教育総務課

## 1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単 位 施 策	学校教育
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力を育む教育活動が行われています。</li> <li>・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。</li> <li>・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。</li> </ul>
基 本 事 業	安全で快適な教育環境の整備

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>本市は、幼稚園 24 園、小学校 27 校（ほか分校 1 校）、中学校 9 校（ほか分校 1 校）の園・学校施設（198 千㎡）を有しており、面積では市全体の公共施設（440 千㎡）の 45% を占めている。これまで、校舎、屋内運動場等躯体部分の耐震化を計画的に進めてきたほか、門扉、フェンスの取付けやトイレ改修など、園・学校施設の安全性や快適性の確保に努めてきた。また、東日本大震災の災害を教訓として、校舎屋上を津波や浸水被害に対する一時避難所とする整備も進めている。一方で、こうした教育施設のうち約 27.6%（55 千㎡）で建築後 40 年が経過しており、施設・設備の老朽化による維持補修件数が増加しているほか、それぞれの改修費も増大する状況にある。</p>
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>学校の門扉、周囲のフェンスの取付け・改修は、平成 24 年度で全中学校への施工を完了し、平成 26 年度末までに小学校 27 校中 15 校への整備を完了した。</p> <p>平成 21 年度から、老朽化対策として、国の学校施設環境改善交付金を活用し、トイレ全面改修を進めている。平成 26 年度に光陵中を施工し、全中学校の改修を完了した。小学校は多度東小で施工し、27 校中 18 校が改修済となった。</p> <p>平成 24 年度から、地震・津波対策として、国の防災機能強化交付金を活用し、浸水が予想される沿岸部の小中学校から屋上へのフェンスの設置に着手した。また、校舎等の非構造部材の耐震化を進め、校舎や避難所となる屋内運動場へガラス飛散防止フィルムの施工を行っている。平成 26 年度は、精義・立教小に屋上フェンスとガラス飛散防止フィルムを、陽和中にガラス飛散防止フィルムを、長島地区の長島中部小に屋外避難用非常階段、屋上フェンス、屋内運動場へのガラス飛散防止フィルムを設置した。平成 26 年 2 月に益世小学校で電灯の落下事故が発生し、その修繕時に内壁の剥離崩落の危険があることが判明したため、平成 26 年 6 月に補正予算を計上し、モルタル及び照明器具落下防止工事（梁撤去と樹脂剤注入）を施工した。</p>

### 【益世小学校モルタル及び照明器具落下防止工事】



完成

### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28	実績			単位
			目標値	H24	H25	H26	
	門扉、周囲のフェンスの取付け	小学校門扉設置済校数 (全 27 校中)	21	14	15	15	校
	老朽化対策・環境改善・トイレ改修	トイレ改修実施済校数 (未実施校 36 校中)	30	22	24	26	校
	地震・津波対策	屋内運動場ガラス飛散防止フィルム取付け校数(全 37 校中)	21	13	15	17	校

#### 指標の考え方

市立幼稚園、小・中学校の校舎、屋内運動場躯体の耐震化は完了していることから、防犯対策や環境改善対策、地震・津波対策等の安全対策を実施した学校数を指標とした。

#### 指標の分析

小学校門扉は、毎年 2 校設置し、15 校で実施済みであるが、26 年度は、未実施である。  
ガラス飛散防止フィルムの施工については、屋内運動場では、小学校 12 校、中学校 5 校、校舎については、小学校 5 校、中学校 1 校で実施済みである。トイレ改修も含め、目標値を目指して進めていく。

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>平成 26 年度をもって、長島地区への屋外避難用非常階段の設置は完了した。</p> <p>今後も、地震、津波対策を進めていくが、多くの学校が老朽化しており、給排水設備、消火・防火設備等、施設の根幹を成す部分の修繕が必要となっている。計画的な修繕に努めているが、施設全般に老朽化が激しく対処療法的な対応を余儀なくされている。また、非構造部材（外壁、内壁、梁、照明器具等）の検査、対策が必要である。</p>
今後の展開	<p>防犯対策としての門扉設置については、学校側からのニーズ等も検証しながら進捗させていく。</p> <p>津波対策としての屋上フェンス設置は継続して計画的に取り組んでいくが、対象校については、関係所管と協議しながら慎重に選定する。</p> <p>地震対策としてのガラス飛散防止フィルム施工については、PTA 活動等の協力を得ながら目標値を目指して進めていく。</p> <p>非構造部材の耐震化や老朽化対策については、多額の費用を伴う事業であるため、市の財政状況や、策定中の桑名市公共施設等総合管理計画を勘案して進めていく。</p> <p>施設管理者として、子ども達のより豊かな学びと健やかな育ちの実現に向けて適切な環境づくりに努め、各学校の実情に照らし合わせながら、限られた財源の中で優先順位を付け目標値を目指して進めていく。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

生涯学習課

## 1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単 位 施 策	青少年健全育成
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年が心身ともに健やかにたくましく成長しています。</li> <li>・ 青少年が個性を発揮し、積極的に社会活動に参加しています。</li> </ul>
基 本 事 業	青少年育成活動の充実

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>青少年を取り巻く環境と地域教育力の向上を図るため、青少年育成団体との連携や地域における指導者の育成のほか、関係団体等への活動支援、情報交換、研修会を進めている。</p> <p>昨今、子ども達に関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動が深刻化し、家庭の教育力の低下等の緊急課題に対し、社会全体による包括的な取組として、「放課後子ども教室」を実施し、子ども達の安全で健やかな居場所づくりに取り組んでいる。</p>
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>青少年健全育成事業として、青少年育成市民会議や子ども会、放課後子ども教室などの事業を支援するとともに、関係団体との情報交換や研修会を実施した。</p> <p>子ども会活動は、異年齢交流や地域での異世代交流等により、「子どもの社会性・協調性の醸成」や「保護者の情報交換の場となる」など一定の評価を得てきたが、昨今、加入率は低下傾向にある。</p> <p>また、社会全体による取組で進められている「放課後子ども教室」については、現在7小学校区で実施しているが、本事業の必要性や有益性について周知し、新規開設に向けて取組を進めている。</p>



【放課後子ども教室の様子】

(大和小学校) 大和わくわく教室

### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
	市民会議主催事業の参加者数	市民会議主催事業の参加者数	20,200	20,100	20,200	20,000	人
	子ども会加入率	加入児童等数 / 市内在住児童等数	-	10.0	9.0	7.3	%
	放課後子ども教室実施小学校数	全 27 校中	10	7	7	7	校
指標の考え方							
<p>青少年育成活動への参加が事業の広がりを示す指標の考え方となることから、その代表的なものを指標とした。</p>							
指標の分析							
<p>地域の積極的な参画があり、ほぼ平年並みの活動が行われている。          少子化や地域での担い手(サポーター)不足により、年々加入者数は減少しており、加入率は低下傾向にある。          実施校は増えていない。</p>							

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>いじめ、不登校、ニート、少年犯罪の深刻化などに対応するため、青少年健全育成に関わる中心的組織である青少年育成市民会議をはじめ、子ども会や放課後子ども教室など関係団体の指導体制の充実が課題となっている。</p> <p>子ども会については、任意団体で強制力はなく、加入者の増加につながる対策をとりにくいという課題がある。</p> <p>また、放課後子ども教室については、コーディネーターやサポーター等の安全な活動のための人材確保が課題となっている。</p>
今後の展開	<p>地域における青少年育成指導体制の充実のため、関係団体等と連携を図りながら、啓発活動及び研修会等の支援を行い、青少年育成活動の充実を進める。</p> <p>子ども会育成者連絡協議会と協議を行いながら、地域の支援、保護者の協力、行事内容の改善、広報啓発など、各種課題に対する対応を進める。</p> <p>放課後子ども教室事業の円滑な実施のためには、学校や地域住民の協力が不可欠であり、コーディネーターの発掘やボランティア等の協力者の確保により、事業内容の充実や新規開設に向けた取組を進める。</p>



# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

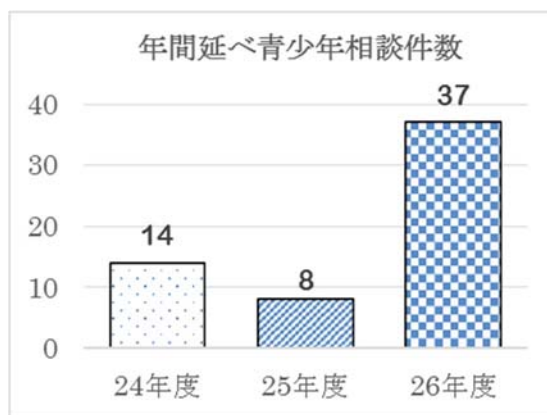
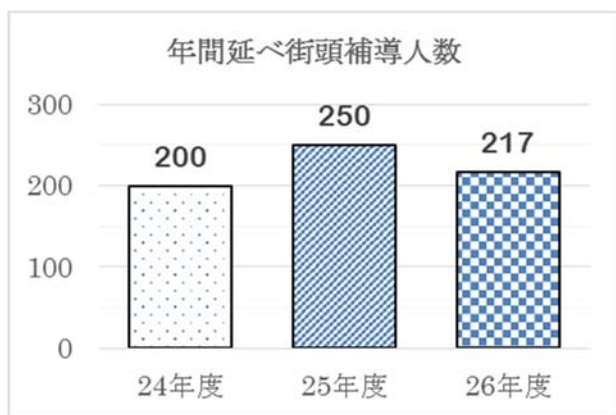
生涯学習課

## 1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単 位 施 策	青少年健全育成
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年が心身ともに健やかにたくましく成長しています。</li> <li>・ 青少年が個性を発揮し、積極的に社会活動に参加しています。</li> </ul>
基 本 事 業	青少年の非行防止・保護体制の充実

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>青少年の非行・被害防止を図るため、教職員やPTA、その他各種団体に委嘱している補導委員及び職員が、桑名駅周辺や大型複合店舗、公園など、青少年の姿を多く見かける場所を巡回している。また、夏休み期間中に集中的に行う特別補導をはじめ、不審者情報の寄せられた場所も注意して巡回を行っている。</p> <p>そのほか、青少年に影響を与える有害図書の除去などの環境浄化のため、三重県青少年健全育成条例による立入調査員活動と連携して各店舗などの立入り調査を実施している。</p>
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>青少年の非行防止・保護体制の充実のため、学校、警察、子ども総合相談センターなど関係機関と連携しながら、街頭補導や各店舗の立入り調査など、街頭補導出動総員数1,290人で延べ534回の街頭補導を行った。</p> <p>また、犯罪から子どもを守る取組の一つとして、各小学校区に実施母体を組織し、緊急時における子どもの避難所「子どもSOS」の家を2,552か所設置し、登下校時の安全・安心を確保した。</p> <p>これらの活動により、市民の間に青少年の非行防止や被害防止に対する関心が高まりつつあり、学校や地域等で情報共有や啓発にもつながっている。</p>



### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
	街頭補導実施回数	街頭補導回数	450	439	369	534	回
指標の考え方							
青少年の非行防止・保護体制の量を示す主な活動を指標とした。							
指標の分析							
平成 24 年度は、重大事件の発生を受けて、重点的にパチンコ店や大型店舗の駐車場の巡回を行ったことから増加したが、平成 25 年度は例年並みの補導回数となった。平成 26 年度から一回の補導参加者の人数を減らし、補導回数を増やしたため増となった。							

### 4 今後の方向性

課題の 整理	<p>街頭補導活動などの取組により、現在のところ特に青少年の際立った問題行動の事例は少なく、比較的落ち着いている。しかしながら、各地で悲惨な事件も起きており、今後も引き続き、街頭啓発・街頭補導や環境浄化活動などの取組による非行防止・保護体制の充実が必要である。</p>
今後の 展開	<p>多くの市民が参加し、青少年の非行行動を未然に防ぐため、補導委員や関係機関等（学校・警察・事業所・地域）との連携を強化するとともに、実施場所や時間、回数、活動人数等を随時検証しながら、効果的な補導活動の取組を進める。</p> <p>また、引き続き、犯罪から子どもを守る取組として、地域全体で子どもの登下校を見守れるよう「子どもSOS」の家の設置を進める。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

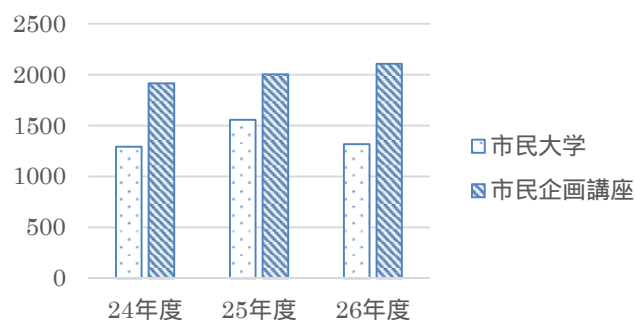
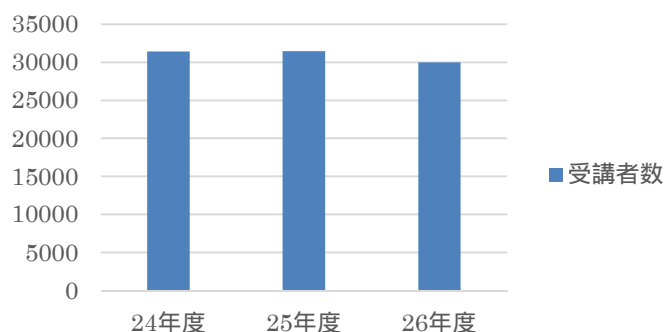
生涯学習課

## 1 施策体系

項	生涯学習を通しての自己実現
単 位 施 策	生涯学習
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる環境が整っています。</li> <li>・生涯学習で得た知識や経験等の学習成果が、地域社会に還元されています。</li> </ul>
基 本 事 業	生涯学習推進体制の整備

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>公民館では、定期的に各種講座・学級等を開設し、市民ニーズに応じた様々な学習機会を提供した。講座の内容は、趣味・教養だけでなく、市民大学講座や市民自らが企画提案した市民企画講座など現代的課題、社会的な課題に取り組み、地域の関心やニーズの高いテーマも取り入れ、事業の充実を推進した。</p> <p>桑名市立図書館では、3館それぞれが地域館としての特色を活かしながら、学校教育支援、子ども・子育て支援、高齢者・障害者支援、キャリアアップや情報提供など、乳児から高齢者にわたる幅広い年齢層に対し、様々な事業を企画し、多様化する市民ニーズに満足していただける図書館運営に取り組んだ。</p>
法令・制度の変更	平成22年10月 桑名市生涯学習推進計画を策定
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>公民館の各種講座・学級等では、104 講座・16 学級を開講するほか、「くわな市民大学」は5講座、「市民企画講座」を6講座開講し、いずれも期待どおりの参加者を得ることができ、参加者からも好評を得ている。また、講座生が自主的に行う第 講座の開講やサークルへの移行など、学習成果を活かす仕組みづくりを進めている。</p> <p>図書館は、学校教育支援として見学や中高生の職場体験の受入れ、団体貸出、ブックトークセットの貸出、子ども・子育て支援として「ゆめはま文庫」の貸出しや子ども向けイベントの実施、高齢者・障害者支援として対面朗読等の実施、キャリアアップ・情報提供支援としてサテライトカレッジの実施や企画展示など様々な事業を実施し、市民と協働しながら、図書館利用のきっかけづくりを推進している。</p>



【公民館：講座受講者数の推移】

【市民大学と市民企画講座の受講者数の推移】



### 3 成果と分析

指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
			H24	H25	H26	
講座受講者数	市民大学、講座・学級等の年間延べ受講者数	32,000	31,401	31,461	30,006	人
図書貸出冊数	3館(中央・長島・多度)の貸出冊数	1,300,000	1,230,340	1,214,244	1,286,317	冊
指標の考え方						
<p>公民館が主催する講座等の受講者数の年毎の推移を指標とした。 図書館の貸出冊数の年毎の推移を指標とした。</p>						
指標の分析						
<p>やや減少しているが、一定の効果は得ている。 平成26年度は、10月の図書システムの更新により本の貸出延長がホームページ上でも可能となったため、貸出冊数が増加した(人口10万~15万人未満都市の公共図書館の中で全国12位、全国平均757,000冊)。</p>						

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>公民館の各種講座・学級の内容について、重複する講座・学級がみられるほか、人づくり・地域づくりの視点から現代的課題や生活課題への対応が不足しており、バランスのとれた学習に取り組めるよう、多様な学習機会を提供することが課題となっている。また、市民の自主的な学習を支援するため、受講生の学習成果を活かす仕組みづくりや活躍できる場の提供が求められている。</p> <p>図書館は、生涯学習を支援する中核施設として、また、地域の情報センターとして図書館運営・管理を行っている。しかし、ここ数年、入館者数が伸び悩み傾向にあり、利用拡大を図るための魅力ある図書館運営が求められている。</p>
今後の展開	<p>公民館講座選定委員会で適切に講座の見直しや新規講座の十分な検討を行い、引き続き市民の学習ニーズを的確に把握しながら、多様な学習機会の提供を進める。また、学習効果を活かす仕組みづくりとして、市民大学等の参加者による教室運営、学習成果を発表できる機会や学習成果が活かされる取組を進める。</p> <p>桑名市立図書館では3館それぞれの特徴を活かしながら生涯学習を支援する中核施設として、家庭・地域・学校と協力しながらより多くの市民の方にご利用いただけるよう、自主企画事業の充実、利用しやすい図書館システムなど、時代のニーズに対応できる図書館運営を進める。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

スポーツ振興課

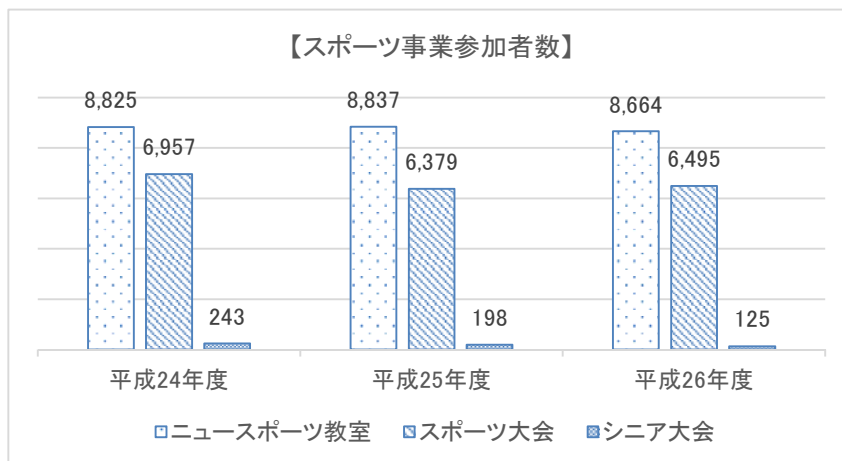
## 1 施策体系

項	生涯学習を通しての自己実現
単 位 施 策	生涯スポーツ
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの市民がスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らしています。</li> <li>・種目別（競技）スポーツが盛んになっています。</li> </ul>
基 本 事 業	スポーツ活動の充実

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>市民があらゆる地域で、いつでもスポーツ活動が行えるよう、市が委嘱した「スポーツ推進委員」によるニュースポーツ（ソフトバレーボール、キンボール等）教室を開設するとともに、市民が実施するスポーツ大会の運営指導や審判の派遣等を行っている。</p> <p>その他、市民の健康体力づくりへのニーズに応じて、老若男女問わず生涯にわたるスポーツライフの実現に向けた事業を推進している。</p>
法令・制度の変更	スポーツ振興基本計画（文部科学省）
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>「スポーツ推進委員」は、ニュースポーツ教室を開催する他、自ら企画したイベントを実施した。また、広報等を利用し、スポーツ推進委員を市民に周知できるよう努めている。</p> <p>市が主催する市民体育大会を8月から翌年2月の期間に開催し、多くの市民に参加をいただいている。また、三県三市によるボート競技事業「木曾三川交流レガッタ」を毎年2回海津市で開催している。</p> <p>高齢者の人口増加に伴い、シニア向けのスポーツを普及させるため、50歳以上の初心者を対象に「グラウンド・ゴルフ」と「卓球」の2種目の教室を開催している。</p>

【スポーツ事業参加者数】



### 3 成果と分析

指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
			H24	H25	H26	
ニュースポーツ 教室参加者数	スポーツ推進委員が開催する教室の参加者数	7,100	8,825	8,837	8,664	人
スポーツ大会参加者数	市が主催するスポーツ大会の参加者数	7,000	6,957	6,379	6,495	人
シニアスポーツ 教室参加者数	高齢者向けスポーツ教室の参加者数	240	243	198	125	人
指標の考え方						
<p>スポーツ推進委員が市内各地域で活動しているが、競技種目や指導方法はそれぞれ推進委員が主導で行っているため、教室の参加者数は推進委員の活動指標となる。</p> <p>スポーツ大会及びシニアスポーツ教室の参加者数については、市が実施するスポーツ事業が市民へどれだけ浸透しているかが分かる指標である。</p>						
指標の分析						
<p>それぞれの参加者数については大きな変動はないことから、主に特定の方が継続し参加されていることがわかる。新規の参加が見込める取組が必要である。</p> <p>なお、上記実績に含まれていない実行委員会事業等のスポーツ大会参加者数は、平成24年度が9,148人、平成25年度が8,721人、平成26年度が6,812人である。</p>						

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>ニュースポーツ教室においては、参加者数が多く増え、利用施設が不足している。</p> <p>スポーツ推進委員の市民への認知度が低く、市民のスポーツ活動やイベントに十分に活かされていない。</p> <p>市が主催するスポーツ大会や教室の種目に変化がない。</p> <p>シニア向けスポーツの人気の低下と愛好家の高齢化により、教室への参加者が減少しており、継続が困難になってきている。</p>
今後の展開	<p>ニュースポーツ教室の種目や実施時間を見直すなど、効率化を図り、施設を有効に利用できるようにしていく。</p> <p>引き続きスポーツ推進委員の協力のもと、地域スポーツの普及に努めるとともに、就学前の子どもや高齢者にも参加できるニュースポーツの利点を活かした、新たな種目についても取組を進める。</p> <p>市民のニーズに即したスポーツ大会や教室の把握に努めるとともに、限られた予算で新規に事業を実施していくため、関係団体やボランティアとの協働事業を展開していく。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

スポーツ振興課

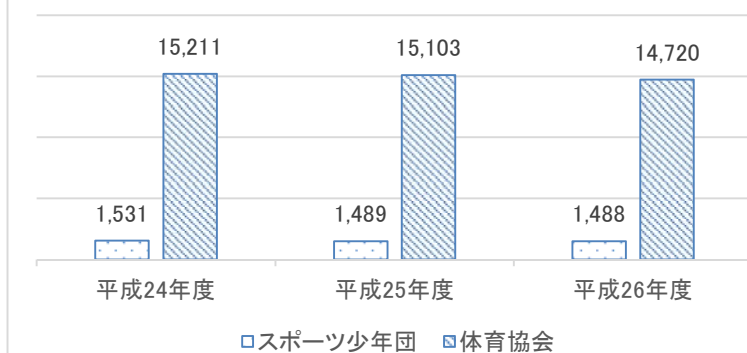
## 1 施策体系

項	生涯学習を通しての自己実現
単 位 施 策	生涯スポーツ
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの市民がスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らしています。</li> <li>・種目別（競技）スポーツが盛んになっています。</li> </ul>
基 本 事 業	スポーツ組織の育成と充実

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>総合型地域スポーツクラブは、地域の住民が主体となり、それぞれのライフスタイルや趣向に合わせて「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツ・文化活動を楽しめる環境を提供している。本市では、「TAFスポミンクラブ」「スポーツステーション多度」「ヴィアティンスポーツクラブ」が設立されており、様々な取組が進められている。</p> <p>体育協会及びスポーツ少年団では、スポーツ競技を通じて青少年たちの健全育成を図り、アマチュアスポーツの普及及び競技力の向上を目的として活動を行っている。</p>
法令・制度の変更	スポーツ振興基本計画（文部科学省）
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>総合型地域スポーツクラブの運営にあたっては、体育協会やスポーツ推進委員などの既存団体に講師派遣を依頼するなど調整を図り、健康体操やミニバスケットボールなどのスポーツ教室、絵画や和太鼓などの文化教室、卓球交流会や立地を活かした街中ウォーキング等のイベントを開催し、地域の方の交流や青少年の健全育成の場として、文化・スポーツ両面から地域社会の活性化に貢献している。なお、「TAFスポミンクラブ」については、平成 26 年 4 月から自立運営を行っており、「スポーツステーション多度」については、平成 28 年 4 月から自立運営を行う予定である。</p> <p>体育協会とスポーツ少年団については、支部制を廃止して組織体制の強化を図っており、競技団体向けに指導者講習会を開催し、スポーツ少年団の指導者が多数参加され好評を得ている。</p>

【スポーツ少年団・体育協会構成員数】



### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
	総合型地域スポーツクラブ数	活動している総合型地域スポーツクラブの数	5	2	2	3	団体
	スポーツ少年団の団員数	市スポーツ少年団に加入している団員の合計人数	1,600	1,531	1,489	1,488	人
	体育協会加盟団体の構成員数	市体育協会に加盟している各競技団体の合計人数	15,500	15,211	15,103	14,720	人

#### 指標の考え方

総合型地域スポーツクラブの数により、スポーツやレクリエーションを楽しめる環境も増え、市民がスポーツ等に取り組やすくなる状態を明らかにできる。

体育協会及びスポーツ少年団に加入又は加盟する人数からは、スポーツ競技人口が把握でき、両団体の活動規模が理解しやすくなる。

#### 指標の分析

総合型地域スポーツクラブが活動するためには、拠点となる活動場所と指導者が必要であるが、それらの確保が難しいことから団体数の増加は厳しい状況にある。

市民の少子化や高齢化による競技人口の減少は想定される範囲内である。また、高齢者に向けた競技の普及が求められる。

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>既存のスポーツクラブの中には、自主財源の安定的な確保など、自立した健全運営が課題となっているクラブもある。また、クラブが専用利用できる施設には制約があるため、小・中学校の学校開放等も利用して活動しているが、現状では十分に活動場所を確保できていない。</p> <p>今後、ジュニア世代のスポーツ環境の充実を図り、地域スポーツを支えるためにもスポーツ少年団や体育協会との連携が必要である。</p>
今後の展開	<p>総合型地域スポーツクラブに関する助言・指導を行う県の広域スポーツセンターと連携を図り、スポーツ指導者の育成や自立・継続したクラブ運営ができるよう助言・支援を進める。</p> <p>また、スポーツ施設を利用する既存団体と、利用場所の空いている日時を聞き取るなどしてクラブとの共同利用について調整を図り、クラブの活動拠点となるスポーツ施設の確保に努める。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団の協力のもと、市民がより自発的にスポーツに参加できるような環境づくりに努めるとともに、競技力強化を図るための支援を進める。</p>



# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

文化課

## 1 施策体系

項	個性豊かな文化の創造
単 位 施 策	文化・芸術
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で気軽に文化・芸術に親しむ機会に恵まれ、心豊かな市民社会が形成されています。</li> <li>・市民の文化・芸術に対する関心が高まり、多くの市民が文化・芸術活動を実践しています。</li> </ul>
基 本 事 業	文化・芸術活動の推進

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>市民の文化・芸術への意識の向上を図るため、文化・芸術活動の推進に努めている。</p> <p>「市民芸術文化祭」は、市文化協会に委託し、文化団体の方々が自ら運営し、団体間の交流を行うとともに、広く市民に向けた文化や芸術に触れる様々な催しを開催している。また、市民の文化・芸術に対する関心を高め、活動を支援し、作品発表や観賞の機会を提供するため、学識経験者や専門家で構成する市民展運営委員会において協議していただき、「市民展」を開催している。</p> <p>子ども達が、主体的に取り組む活動や歴史や文化に触れる機会として、子ども文化祭実行委員会に委託して、体験教室や展示などを行う「子ども文化祭」を開催している。</p>
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>「市民芸術文化祭」は市文化協会に委託し、例年 10 月から 3 月にかけて舞台発表や展示などを行う部門祭のほか、会員以外も参加する「ふれあい交流会」を開催している。</p> <p>教育委員会が主催する「市民展」は、平成 26 年度で 61 回目の開催を迎え、日本画・洋画・美術工芸・書道・写真・陶芸の 6 部門ごとに招待作品と無鑑査作品、一般作品展を開催しており、出品者同士が切磋琢磨し、質の高い作品が出品されることで、見学者の増加も期待できる。</p> <p>「子ども文化祭」は、子どもが主体的に取り組むイベントとして、子ども会育成者連絡協議会や文化協会等で構成した実行委員会方式で開催をしている。</p>



【第 61 回桑名市民展】  
洋画部門審査員による講評の様子

### 3 成果と分析

指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
			H24	H25	H26	
市民芸術文化祭来場者数	桑名市文化協会の育成事業「市民芸術文化祭」の入場者数	7,400	7,095	7,178	5,229	人
市民展出展数	6部門で構成される「市民展」への一般の部出品数	200	201	199	209	点
子ども文化祭来場者数	子どもを対象のイベント「子ども文化祭」の入場者数	4,370	3,965	3,966	4,496	人
文化事業への参加者数	市文化課事業他	19,400	17,869	15,985	14,141	人

#### 指標の考え方

平成26年度で23回目を迎えた「桑名市民芸術文化祭」は、各種の文化活動を通じ、市民の文化活動並びに振興に寄与しており、入場者数を指標に設定した。61回目を迎えた「桑名市民展」は、出展する方も、観賞する方も含め、市民の芸術文化に対する意識を高めることから出品数を指標に設定した。

19回目を迎えた「子ども文化祭」は、子どもが主体的に取り組む活動の場として、また、地域で受け継がれてきた歴史や文化に触れることで、次世代の担い手を育成することを目的に開催しており、入場者数を指標に設定した。

#### 指標の分析

桑名市民展の出品数については、部門ごとの増減はあるものの、学校のクラブ活動等学生を含め若手の出品を働きかけた結果、26年度の実績は増加した。

「桑名市民芸術文化祭」入場者数は、会場が変更になったことなどから減少した。「子ども文化祭」については、目標値を達成した。

### 4 今後の方向性

課題の整理	うるおいある市民生活や個性豊かな地域社会を創造するため、文化・芸術活動を継続的に推進していくことが課題となっている。桑名市文化協会に委託して開催している市民芸術文化祭について、各団体のアイデアにより多くの方に芸術に触れてもらえるようにしていく。
今後の展開	現在、取り組んでいるいずれの事業も、市民の更なる芸術文化に対する意識を高めることや、親しむ機会としても重要であり、引き続き内容の充実と広報活動に力を入れる。 市民展へは学校のクラブ活動等、学生を含め若手の出品を働きかける。また、生涯学習の一環として、高齢者やサークル、講座で活動している個人へも出品を促す。 「子ども文化祭」については、各学校で行っているフェスタ等へ移行することとした。

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

文化課

## 1 施策体系

項	個性豊かな文化の創造
単 位 施 策	文化財
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土の貴重な歴史遺産である文化財の保護を通じて地域の一体感が深まっています。</li> <li>・ 郷土の伝統や文化を大切にし、ふるさと桑名を愛する心が育まれています。</li> <li>・ 桑名に残る貴重な古文書類などの歴史資料が大切に保存されています。</li> </ul>
基 本 事 業	文化財の調査・保存

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>本市が有する文化財を次の世代に自信と誇りを持って引き継ぐため、文化財の調査・保存に努めている。</p> <p>埋蔵文化財発掘調査事業は、文化財保護法に基づき、開発等が行われる際、事前の試掘・発掘調査を行っている。</p> <p>文化財保存事業では、公益財団法人諸戸財団所有の諸戸家住宅・諸戸氏庭園の保存修理（平成 20 年度～平成 31 年度予定）や石取祭の祭車の保存修理、文化財掲示板の修理及び文化財標識の設置等を計画的に行っている。</p> <p>また、市内で保有・保管されている文化財の調査も継続して行っている。</p>
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>埋蔵文化財発掘調査事業は、桑名城下町遺跡をはじめとする市内遺跡において発掘調査を実施し、出土品の整理や測量調査を行っている。26 年度には、遺跡内での土木工事にかかり 62 件の届出があり、その内 14 件について発掘調査を行った。</p> <p>文化財保存事業は、諸戸家住宅、諸戸氏庭園で構造物の部分解体や構造補強を進めていたほか、西船馬町の石取祭車の水引幕の復元新調、天武天皇御足洗井の文化財ガイド板の修理 1 件及び安渡寺「聖観音菩薩」の文化財ガイド板 1 件、桑名駅西口地区に標識を 2 件新設した。</p> <p>諸戸家住宅・諸戸氏庭園・石取祭の祭車の保存修理については、修理方法が複雑であるため、有識者、所有者、国、県、市のメンバーで保存修理委員会を設置し、修理方法の検討を行いながら進めている。</p>



【諸戸氏庭園・諸戸家住宅修理事業】



### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
	指定文化財件数	指定文化財の増加及び昇格件数	170	162	165	165	件
	諸戸氏庭園保存 修理進捗率	「諸戸氏庭園・諸戸家住宅」 の保存整備工事の進捗率	90	21.6	30.9	38.85	%
指標の考え方							
<p>文化財を次の世代に引き継ぐため、調査・保存に努めており、指定文化財件数を指標に設定した。</p> <p>平成 20 年度から平成 31 年度にかけて文化財保存事業として諸戸家住宅・庭園の保存修理を行っており、諸戸家住宅の保存整備工事の進捗率を指標に設定した。</p>							
指標の分析							
<p>平成 26 年度は、新規の指定ができなかった。</p> <p>文化財の修理は、修理方法を慎重に検討しながら進めていく必要があるため、時間と費用がかかり、予定どおりに進めることは難しい。</p>							

### 4 今後の方向性

課題の 整理	<p>文化財の調査を継続して行い、指定文化財の増加（現在 165 件：国指定・登録 21 件、県指定 32 件、市指定 112 件）や昇格を図っていく必要がある。</p> <p>文化財の修理は、慎重に行う必要があるため、時間と費用がかかる傾向がある。現在の状況は財政面、人材面ともに制限があり、行える事業はごく一部に限られているため、「保存・調査」が追いつかない状態にある。十分な事業を行うためには専門的かつ継続的に動ける人材の確保が必要である。</p>
今後の 展開	<p>文化財の調査を行うとともに、これらを守るだけでなく、市民の方はもちろん多くの方に桑名市の魅力として知っていただくための機会を提供していく。</p> <p>文化財の価値を担保した修理を進めるために、国、県、所有者と連携を図りながら事業を進める。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

文化課

## 1 施策体系

項	個性豊かな文化の創造
単 位 施 策	文化財
施策が目指す 将 来 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の貴重な歴史遺産である文化財の保護を通じて地域の一体感が深まっています。</li> <li>・郷土の伝統や文化を大切にし、ふるさと桑名を愛する心が育まれています。</li> <li>・桑名に残る貴重な古文書類などの歴史資料が大切に保存されています。</li> </ul>
基 本 事 業	文化財の活用

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>文化財については、地域を愛する心を育むため、大切に活用していく必要がある。</p> <p>国指定重要文化財「六華苑」の活用及びPR事業として、平成8年から同苑の芝生広場を利用し、教育委員会主催で十六夜コンサートを開催している。</p> <p>「多度のイヌナシ自生地」の保全活動と花を見る会や「ヒメタイコウチ」の生き物観察会を、地域や県、植物・生物の専門家の方の協力を得て開催している。</p> <p>文化財の調査で得られた様々な情報・成果等を担当した文化課職員が学校の教室や現地に赴き、調査内容について出張講座を行っている。</p>
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>十六夜コンサートは、来場者から好評を得ており、重要文化財の活用と六華苑のPRにおいても重要な事業となっている。</p> <p>文化財の保存と活用のために、イヌナシ自生地保護活動委員会、ヒメタイコウチ保護活動委員会、桑名石取祭の祭車行事保存伝承委員会を開催した。</p> <p>文化課では、遺跡（埋蔵文化財）の発掘調査や市内に残る様々な文化財の調査を行っているが、文化財は地域で守られてきたかけがえのない歴史遺産で、地域の歴史・文化を学ぶことのできる素晴らしい教材であるため、「出張歴史講座」として文化財の調査で得られた様々な情報・成果等を、調査を担当した職員が学校の教室や現地に赴き、身近な地域の文化財についての出張講座等を行った。</p>



【出張歴史講座】小学校現地学習（六華苑）



【多度のイヌナシ自生地の保全活動】

### 3 成果と分析

指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
			H24	H25	H26	
十六夜コンサート入場者数	重要文化財「六華苑」十六夜コンサートの入場者数	400	434	368	447	人
生きもの観察会参加者数	市天然記念物「ヒメタイコウチ」の観察会への参加者数	60	95	64	65	人
イヌナシ自生地の保全活動	国指定天然記念物「多度のイヌナシ自生地」保全活動参加者数	100	80	114	127	人
出張歴史講座受講人数	出張歴史講座への受講人数	4,000	3,189	3,693	1,802	人
指標の考え方						
<p>重要文化財「六華苑」の活用及びPR事業として、平成8年から開催している十六夜コンサートの入場者数を指標として設定した。</p> <p>天然記念物のヒメタイコウチやイヌナシは、地元の方と協力して保護施策を進めており、毎年開催している生きもの観察会等への参加者数を指標として設定した。</p>						
指標の分析						
<p>についてはおおむね順調に推移している。</p> <p>の出張歴史講座の申し込みが少なかった。</p>						

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>多くの文化財がある魅力ある“まち”として、たくさんの人から行ってみたいと思ってもらえるように、文化財の活用や公開をさらに進めていく必要がある。</p> <p>保護活動の中心となっている年齢層は高く、後継者を育てていくためにも、児童・生徒へのPRが大切だと思われる。</p> <p>天然記念物の活用は環境破壊につながらないよう、人数を制限しながら行う必要がある。</p>
今後の展開	<p>六華苑など貴重な市民の財産である文化財を活用して、桑名の魅力として情報発信していく施策を推進していく。また、出張歴史講座については、講座メニューを見直し新しいものを取り入れることにより講座の回数を増やし、魅力ある授業を行うほか、新規採用教員への事前研修等授業との結びつきを更に強め、身近な文化財としてふれあえる場を提供していきたい。</p> <p>文化財の保護と活用について、啓発活動を推進していく。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

人権教育課


## 1 施策体系

項	人権が尊重されるまちづくりの推進
単位施策	人権・同和教育
施策が目指す将来の姿	・一人ひとりの児童生徒が、自分の大切さやほかの人の大切さを認めることができ、それが様々な状況で態度や行動に表れるようになっていきます。
基本事業	人権・同和教育内容の充実

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>市内中学校ブロック（9ブロック）において、同和教育を柱とした「人権尊重の学校づくり・地域づくり」を目指して、保護者や地域及び関係機関（PTA、各地域の人権啓発推進会、高等学校等）と連携・協働した学習活動を行っている。また、各ブロック代表者の交流会を年2回開催し、各ブロックの計画と実践の情報交流および共有を行っている。</p> <p>中学校ブロックの教職員は、積極的に人権の授業公開や、自分自身と「部落問題」との出会いやカリキュラム等の実践交流を通して、幼小中の連携を深めている。</p>
法令・制度の変更	<p>三重県人権教育基本方針（平成21年2月改定）</p> <p>桑名市人権教育基本方針（平成27年3月策定）</p>
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>人権感覚豊かな人づくりを地域社会の中で進めるために、保護者・地域の方々への啓発を意図した学習会・研修視察・講演会等、参画型活動の取組を行っている。</p> <p>事業実施にあたっては、多くの方が人権をより身近な問題として捉え、考えられるよう、「中学校区人権教育推進協議会だより」を全戸配付した。また、「話し合い活動」を講演会や視察時のバス車内で行うなど、工夫した取組を進めている。</p> <p>各学校における人権教育は、児童生徒の課題に基づく推進計画を立てて実践されており、人権に関する授業や行事の公開を保護者だけでなく地域住民やブロック内の他校教職員にも案内し、教職員の研修をより深めながら、子ども達の差別解消への意欲と実践力の向上を図っている。</p>

### 【広報紙】

<p>陽和中学校区人権教育推進協議会広報</p> <p><b>陽和中学校区だより</b></p> <p>2014年度 第2号 10月発行 事務局担当 陽和中学校</p> <p>「甲賀かえで会館・矢川神社」研修視察</p> <p>「親睦をはかりながら見聞を広げることで、人権意識を高める。」を目的に8月28日（木）に、滋賀県甲賀市にある甲賀かえで会館と矢川神社へ、総勢18名で研修視察に行きました。</p> <p style="text-align: center;"><b>甲賀かえで会館</b></p> <p>甲賀かえで会館では、湖南人権センター理事、武田一夫さんから水平社が起った時代についての話を聞かせていただきました。</p> <p>「宝木水平社」の創立に際して、三重県阿山町の福森松蔵さんという方が学校の先生としてこの地に入り、子どもたちの指導（学力面だけでなく社会面も）を行ったこと、その子どもたちから水平社の創立者が育ってきたこと、またこの時代にあつて地域の大人達にも識字学級を開いたので識字率は高かったこと、水平社運動に対して厳しい弾圧があり、拷問もあったことや部落の人に出ず湯飲みは縁の下から出し一般の人とは分けられていたことなど、部落の人たちに対して行われてきた差別の様子をお話しいただきました。</p>	<p><b>陵成中学校区セットアップだより</b></p> <p>陵成中学校ブロック 人権教育推進連絡会広報 2015年3月発行</p>  <p>陵成中学校区にお住まいのみなさん、「人権セットアッププラン」という言葉を耳にしたことはありませんか。今年度も何度かご案内のチラシを配布させていただきました。この事業は、2002年から2004年にかけて、三重県教育委員会が人権教育推進のために行った事業ですが、2005年から桑名市教育委員会に引き継がれ、現在まで続いてきたものです。「人権教育を学校外にも広げて、子どもたちの暮らす家庭や地域とともに学び合う」ために、この事業は今日まで継続されてきました。その取り組みの具体的内容については、各中学校区に委託されています。今年度も人権教育連絡会の担当者で内容話し合い、各学校、家庭、地域へご案内をし、保護者の皆さまや地域の皆さまに何名かご参加をいただくことができました。ありがとうございました。そこで、今年度陵成中学校ブロックで取り組んだ内容について振り返ってご紹介します。</p>
--	--



### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
	話し合い活動実践数	人権啓発推進会等との話し合い活動を実践するブロック数	9	6	7	7	ブロック数
指標の考え方							
<p>子どもの人権意識に影響するのは周囲の大人の意識であることから、大人の意識変革の機会となる話し合い活動を実践するブロック数を指標とした。</p>							
指標の分析							
<p>話し合い活動は、人権意識の向上と意識改革の機会となり、校区の人権課題解決のために有効である。目標値には近づかなかったものの、各校区では参加者の拡大と合わせて工夫している。今後は、参加型研修の楽しさと話し合い活動の良さをアピールするとともに、話し合い活動後の取組を大切にしていくことも必要である。</p>							

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>人権講演会や人権コンサート等への参加者は多数集まるものの、内容に話し合い活動が計画されていると参加者数が減少してしまう傾向がある。</p> <p>子どもの人権意識に大きく影響するのは大人の意識、特に保護者の意識だが、積極的に人権について学ぼうとする方は限られており、広がりには課題がある。</p> <p>中学校ブロック内で担当校を毎年交代するため、前年踏襲の行事開催となりがちである。</p>
今後の展開	<p>話し合いに参加して良かったと思えるように内容や形式について推進協議会で十分協議し、保護者や地域の方々と人権問題について共に語り合い、学び合えるような学習活動にしていく。</p> <p>現状では学校が主体で運営している推進協議会を、将来的には保護者・地域が主体となり、地域の課題を明確にして積極的に運営していけるよう工夫していく。</p> <p>市内で実施される他の人権イベント等と時期的に重なることが多く、思い切って時期を変える計画を立てる。また、短期・長期のねらいを明確にした計画を立て、推進協議会で達成度の評価を行い、系統的・発展的に取組が継続できるようにしていく。</p>

# 平成 26 年度 施策評価シート

評価担当課

人権教育課

## 1 施策体系

項	人権が尊重されるまちづくりの推進
単 位 施 策	人権・同和教育
施策が目指す 将 来 の 姿	・一人ひとりの児童生徒が、自分の大切さやほかの人の大切さを認めることができ、それが様々な状況で態度や行動に表れるようになっていきます。
基 本 事 業	人権・同和教育推進体制の充実

## 2 施策の現状

施策の現状	<p>これまでの同和教育の理念と成果をふまえた若手教員向けの研修講座として、「出会いから自分を見つめる研修」と「授業づくり研修」を実施し、人権教育推進の核となる人材を育成することにより、人権感覚あふれる学校づくりを進めている。</p> <p>人権・同和教育推進の拠点である深谷教育集会所において、広く市民（小中学生と引率の保護者）に啓発を行い、人権問題に対する意識向上を図るため、平成 14 年度から「人権文化構築事業 kizuki」を実施している。教育集会所に集うことで、人権について考えるだけでなく、教育集会所の設置や開催する各種講座の意義等を伝える機会にもなっている。事業の案内・募集は、市内小中学校を通して行うとともに、市広報や市ホームページにも掲載し、地域・市民への周知を図っている。</p>
法令・制度の変更	<p>三重県人権教育基本方針（平成21年2月改定）</p> <p>桑名市人権教育基本方針（平成27年3月策定）</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>「出会いから自分を見つめる研修」では、校長推薦の7名の教員が受講し、「障害者の人権」「在日韓国・朝鮮人の人権」「部落差別の問題」について講師との出会いから学びを深めた。「授業づくり研修」では、担当指導主事が校長推薦の5名の教員に個別指導を行い、児童生徒の背景も踏まえてとらえる視点を学ぶとともに、授業の実践交流を通して「なかまづくり」のより実践的な研修を行った。</p> <p>福祉体験講座（車椅子、点字、手話体験）多文化共生講座（ミャンマー・カンボジア・韓国・ブラジル等の文化に学ぶ講座）を合わせて12回実施した。講座では、体験して気づいた学びを共有し、違いを豊かさを感じるとともに、自分の生き方につなげて考えることができた。毎回の講座にて教育集会所の設置意義や人権文化尊重の大切さも伝え、参加者の気づきが地域ネットワークとして築けるようにしている。</p>

### 【教育集会所人権文化構築事業 kizuki】

#### 【「ブラジルの文化に学ぶ」の様子】

11月16日（日） 参加者 21名

ブラジルから日本に来て暮してみえる講師の先生を迎え、国旗の意味やブラジルで有名なもの、日本とブラジルの違いなどをお話していただきました。また、ブラジル料理をみんなで作り、おいしくいただきました。

ブラジルの文化に触れ、改めて日本を見つめなおす機会にもなりました。



### 3 成果と分析

	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H24	H25	H26	
	特別連続講座受講者数	特別連続講座受講者数	14	12	17	12	人
	講座受講者数	小・中学生及び保護者等の講座受講者数	240	207	201	269	人
指標の考え方							
<p>教師自身の人権意識向上や子どもの見方を中心に、より実践的研修を積むことができる研修のため、受講者数を指標とした。</p> <p>講座を受講していただくことが、正しいことを知り、人権意識の向上につながるため、受講者数を指標とした。近年は年間12回実施している。</p>							
指標の分析							
<p>人数が多すぎると個別指導に十分な時間が取れなくなることもあり、目標値は14人が適正であると思われる。丁寧な指導を心掛けたいと考えている。</p> <p>受講者数の増減はあるもののリピーターの割合が高く、来ていただいた方には本講座のよさが伝わっていると思う。また、人権文化の拠点である教育集会所に集うことで、障害者問題や多文化共生について考えるだけでなく、同和問題を考える機会にもなっている。</p>							

### 4 今後の方向性

課題の整理	<p>若手教員及び経験の少ない教員が増加し、校内で推進リーダーとなる教員が減少している現状の中、この研修で得た力を活かして教育実践を積み上げ、受講者一人ひとりが核となって学校の人権・同和教育を推進していく状況となるようにする必要がある。</p> <p>毎年楽しみにして申し込まれる受講者が多いこともあり、講座がマンネリ化しないよう、内容の刷新や充実を図るとともに、日曜日や夏休み期間中の開催など、多様な参加者のニーズに応えられるような開催方法を検討する必要がある。</p>
今後の展開	<p>子ども達の人権感覚を育むためにも、前年度までの受講者が、校内の研修主任や推進委員、人権・同和教育の推進担当者となって各校の取組の中心的な役割を担うことができるよう、更なる研修の充実及び受講後のフォローや管理職との連携を図る。</p> <p>講座内容や開催時期・曜日と受講者数の傾向を分析し、より多くの人の参加が望める講座運営を考えていく。また、リピーターが多いことを生かして、受講者と職員とのつながりを築き、様々な話をしながら人権意識の高揚を図り、反差別のなかまの輪を広げていく。27年度から月1回土曜授業が実施されるため、学校生活に支障をきたさないよう計画していく。</p>

## 事務事業一覧

基本事業名(確かな学力の育成)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
小学校一般教材・教具購入事業	44,640	児童1人あたり購入額【千円】	6.1	6.3	5.8
		市立小学校1校あたり購入額【千円】	1,815	1,827	1,653
小学校障害児介助事業	77,821	学習支援員1人あたりの特別支援対象児童数【人】	3.6	3.9	3.4
小学校図書館図書充実事業	4,865	小学校図書館図書数標準値達成校率【%】	100.0	100.0	100.0
		未達成校数【校】	0	0	0
小学校特別支援教育就学奨励事業	5,277	就学支援を受けた児童数【人】	150	151	160
		就学支援を受けた児童1人あたりの支援額【千円】	29	30	30
小学校特別支援学級用教材・教具購入事業	949	児童1人あたり購入額【千円】	2.2	1.9	3.8
		特別支援学級1学級あたり購入額【千円】	9	8	15.8
小学校理科教育振興備品購入事業	1,097	備品購入校数【校】	8	5	5
中学校一般教材・教具購入事業	23,484	生徒1人あたり購入額【千円】	6.3	6.3	5.8
		市立中学校1校あたり購入額【千円】	2,989	2,917	2,609
中学校障害児介助事業	33,983	学習支援員1人あたりの特別支援対象生徒数【人】	3.7	4.8	4.7
中学校図書館図書充実事業	2,286	中学校図書館図書数標準値達成校率【%】	100.0	88.0	100.0
		未達成校数【校】	0	1	0
中学校特別支援学級用教材・教具購入事業	207	生徒1人あたり購入額【千円】	8.3	4.1	2.0
		特別支援学級1学級あたり購入額【千円】	25	16	8.6
中学校特別支援教育就学奨励事業	2,160	就学支援を受けた生徒数【人】	42	47	52
		就学支援を受けた生徒1人あたりの支援額【千円】	40	40	41
中学校理科教育振興備品購入事業	734	備品購入校数【校】	3	3	3
「確かな学力」向上非常勤講師配置事業	26,315	講師配置学級の教師・講師1人あたり児童数(3～6年生)【人】	27	26	25
学力向上・生徒指導充実事業	23,457	講師1人あたり生徒数【人】	474	473	459
教職員研修事業	338	教職員等研修会への参加延べ人数【人】	134	135	138
児童生徒対策指導事業	3,477	進路・生徒指導等家庭訪問実施件数(中学校)【件】	2,050	2,198	2,081
		副読本等利用授業時間数(小学校・中学校1校あたりの合計)【時間】	240	240	240
教師用教科書・指導書等配布事業	1,796	教科書・指導書の充足数【充足数】	2,061	359	444
課題研究推進事業	1,300	研究成果発表校・園数【校・園】	6	3	3
学校図書館司書配置事業	3,033	学校図書館の図書貸出延べ冊数(環境整備のための司書派遣校平均)【冊】	6,555	1,979	3,037
教育用コンピュータ整備事業	51,129	コンピュータ1台あたりの児童生徒数【人/台】	8.8	8.7	8.7
		小学校1校あたりの1週間での児童のコンピュータ活用時間【時間】	7.5	8.1	8.5



## 事務事業一覧

基本事業名(確かな学力の育成)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
外国人児童生徒教育推進事業	5,526	必要な指導・支援を受けた児童・生徒の割合【%】	100	100	100
新教育課程推進対策事業	934	新教育課程がスムーズに実施・推進されている市立幼稚園・小中学校数【校・園】	59	59	57
学力・教師力向上推進事業	8,751	研修講座参加延べ人数【人】	1,622	1,766	1,222
		学級生活満足群に位置する生徒の割合【%】	—	61.1	58.5
特別支援教育推進事業	7,735	専門性を身に付け、巡回相談等を担当できる教員数【人】	4	4	4
		発達障害のある市内児童が通級指導教室へ通級する割合【%】	21.5	19.3	18.6
小学校3、4年社会科副読本改訂事業	1,925	社会科副読本利用授業時間数(3、4年生の年間総時数)【時間】	160	160	160
語学指導員事業	20,383	中学校1校あたりの年間訪問日数【日】	70	68	62
		幼稚園・小学校の1校(園)あたりの年間訪問日数【日】	2.4	2.2	2.7
国際化対応事業	1,363	必要な指導・支援を受けた児童・生徒の割合【%】	100	100	100
小学校英語活動推進事業	6,175	年間派遣延べ日数(1校あたり)【日】	24.0	22.6	29.4
土曜授業推進事業	105	ゲストティーチャーによる教育活動対象児童生徒数【人】	—	—	1,436
合計	361,245				

## 事務事業一覧

基本事業名(豊かな心と健やかな体を育む教育)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
修学旅行等引率事業	647	引率経費負担率【%】	96.5	98.7	99.2
クラブ活動等推進事業	4,433	補助金交付件数【件】	127	106	95
教育振興補助事業	160	補助対象事業計画目標達成数【回】	2	2	1
園児・児童・生徒健康診断事業	57,457	健康診断の受診率【%】	100	100	100
「心の教室相談員」配置事業	12,577	1校あたりの年間相談件数【件】	134	106	104
学校防災・防災教育推進事業	2,289	事業成果を反映した取組を行った学校数【校】	—	10	18
部活動エキスパート活用事業	1,127	上位大会への参加(上位入賞)率【%】	72.0	60.0	63.0
適応指導教室事業	7,580	・登校(部分登校を含む。)した児童生徒数 ・次年度進学・就職した通級児童生徒数【人】	18	21	13
		登校、進学、就職率【%】	81.8	75.0	54.0
教育相談事業	5,075	充足率(相談終了率)【%】	51.0	46.5	61.9
いじめ防止対策事業	177	桑名市いじめ問題専門委員会に出席した人数【人】	—	—	7
		桑名市いじめ問題対策連絡協議会に出席した人数【人】	—	—	32
小中学校総合連携推進事業	180	中学校1年生から新たに不登となった生徒数(中学校1年生)【人】	14	7	17
中学生職場体験事業	1,502	「職場体験活動が充実した活動であった」と回答した生徒の割合【%】	87.6	90.0	93.0
		「地域の中学校や中学生への関心が高まった」と回答した事業所の割合【%】	90.2	86.0	83.0
学校給食管理運営事業	231,482	小学校給食調理業務民間委託率(桑名地区)【%】	30.0	30.0	30.0
学校給食管理備品購入事業	14,006	無事故給食提供率【%】	100	100	100
学校給食室施設維持補修事業	9,456	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
学校保健一般管理事務	43,544	ケガ等処置完了・医療費補填件数【件】	2,736	2,700	2832
学校保健管理備品事務	1,247	健康診断に必要な機器の充足率【%】	100	100	100
多度学校給食センター学校給食管理運営事業	70,774	無事故給食提供率【%】	100	100	100
多度学校給食センター管理備品購入事業	0	無事故給食提供率【%】	100	100	100
多度学校給食センター施設維持補修事業	1,664	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
長島学校給食センター学校給食管理運営事業	85,341	無事故給食提供率【%】	100	100	100
長島学校給食センター管理備品購入事業	538	無事故給食提供率【%】	100	100	100
長島学校給食センター施設維持補修事業	3,719	施設維持管理上の不具合件数【件】	7	3	2
合計	554,975				

## 事務事業一覧

基本事業名(開かれた特色ある学校づくり)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
「地域の学校づくり」推進事業	13,753	保護者・スクールサポーター・地域の方々の事業参加者数【人】	29,865	29,846	29,500
合計	13,753				

## 事務事業一覧

基本事業名(就学前教育の充実)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
乳幼児教育推進事業	854	研修講座・実践交流研修会・研修視察の回数【回】	7	7	6
		研修講座・実践交流研修会・研修視察の参加人数【人】	392	359	369
学校・園再編推進事業	137	各クラス20人以上の園児を確保している桑名市立幼稚園の割合【%】	37.5	29.2	16.7
子ども・子育て支援事業計画策定事業	4,215	「子ども・子育て支援事業計画」策定までの進捗状況【%】	—	45.5	100
私立幼稚園就園奨励費補助事業	117,709	桑名市内から私立幼稚園に通っている園児のうち保育料減免園児数【人】	650	709	936
		園児1人あたり補助金額【千円】	87	96	124
幼稚園一般管理運営事務	11,092	予算執行率【%】	98.9	97.3	94.3
幼稚園管理備品購入事業	1,664	購入備品納入園数【園】	22	22	19
幼稚園教材・教具購入事業	8,866	園児1人あたり購入額【千円】	17	17	17
		市立幼稚園1園あたり購入額【千円】	495	453	467
幼稚園障害児介助事業	29,293	保育支援員1人あたりの障害園児数【人】	1.9	2.2	2.1
幼稚園人事管理運営費	16,141	幼稚園教諭充足率【%】	100	100	100
合計	189,971				

## 事務事業一覧

基本事業名(安全で快適な教育環境の整備)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
小学校施設管理事業	211,006	保守点検検査実施率【%】	100	100	100
小学校施設維持補修事業	60,863	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
小学校トイレ改修事業	34,532	トイレ改修済校率【%】	53.5	57.1	60.7
小学校安全管理対策施設整備事業	76,196	門扉設置校率【%】	51.8	55.5	55.5
中学校施設管理事業	92,512	保守点検検査実施率【%】	100	100	100
中学校施設維持補修事業	21,069	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
中学校トイレ改修事業	52,129	トイレ改修済校率【%】	77.7	88.8	100
幼稚園施設管理事業	9,401	保守点検検査実施率【%】	100	100	100
幼稚園施設維持補修事業	6,488	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
校務用コンピュータ整備事業	19,428	校務用コンピュータ配備率【%】	86.7	82.5	81.8
		個人情報の漏えい件数【件】	0	0	0
私立学校等補助事業	4,144	補助金申請のあった私立学校に桑名市内から通っている生徒数【人】	938	902	910
		補助金申請のあった私立幼稚園に桑名市内から通っている園児数【人】	1,138	1,141	769
小学校一般管理運営事務	43,262	予算執行率【%】	94.4	93.5	99.8
小学校管理備品購入事業	10,392	備品納入校数【校】	27	27	27
小学校人事管理運営費	25,314	臨時用務員化率【%】	41.0	48.0	52.0
小学校要保護、準要保護就学援助事業	37,203	就学援助を受けた児童数【人】	605	590	596
		就学援助を受けた児童1人あたり援助額【千円】	63	64	62
中学校一般管理運営事務	16,304	予算執行率【%】	99.0	96.3	95.1
中学校管理備品購入事業	5,286	備品納入校数【校】	9	9	9
中学校要保護、準要保護就学援助事業	32,798	就学援助を受けた生徒数【人】	403	411	421
		就学援助を受けた生徒1人あたり援助額【千円】	78	79	78
高等学校進学奨励事業	3,150	進学奨励金受給者数【人】	120	99	89
スクールバス運行事業(星見ヶ丘地区園児・多度幼稚園児)	8,288	バス利用率【%】	95.4	98.9	97.8
スクールバス運行事業(多度青葉小)	4,785	バス利用率【%】	100	97.1	97.4
園児・児童・生徒安全対策事業	948	登下校(園)時の交通事故発生件数【件】	27	22	27
合計	775,498				

## 事務事業一覧

基本事業名(青少年育成活動の充実)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
青少年教育指導事業	601	参加者数【人】	29,551	26,499	26,073
青少年育成推進指導員活動事業	181	情報交換研修会等の参加者数【人】	33	37	43
青少年育成研修事業	240	研修会参加者数【人】	42	96	30
子ども会育成事業	1,635	子ども会活動年間延べ参加者数【人】	440	471	398
		子ども会加入率【%】	10.0	9.0	7.3
青少年育成市民会議運営事務	3,678	市民会議主催事業への市民参加者数【人】	20,100	20,200	20,000
青少年団体等補助事業	90	ボーイスカウト・ガールスカウトの登録者数【人】	112	100	92
		青年の船参加者数【人】	8	10	11
和く輪くウイークエンド事業	1,770	事業参加延べ人数【人】	3,598	3,817	3,141
青少年国際交流事業	1,000	助成件数【件】	5	5	5
放課後子ども教室開設事業	9,896	参加延べ児童数(1校平均)【人】	2,505	2,422	2,486
		参加スタッフ数(1校平均)【人】	518	531	472
合計	19,091				



## 事務事業一覧

基本事業名(青少年の非行防止・保護体制の充実)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
青少年補導運営協議会運営事業	19	運営協議会で意見があった案件率【%】	100	100	100
青少年安全対策事業	231	子どもSOS設置件数【件】	2,551	2,552	2,536
青少年補導活動事業	2,671	年間延べ街頭補導人数【人】	200	250	217
		年間延べ青少年相談件数【件】	14	8	37
合計	2,921				

## 事務事業一覧

基本事業名(生涯学習推進体制の整備)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
社会教育委員会運営事務	304	委員会で意見があった案件率【%】	100	100	100
成人式行事開催事業	1,699	出席者数【人】	1,215	1,173	1,210
		出席率【%】	81.5	80.0	79.6
生涯学習推進事業	1,512	市民モニタリングによる指摘事項改善率【%】	100	100	100
婦人会連絡協議会活動事業	400	婦人会活動参加者数【人】	698	659	682
PTA連合会活動事業	513	市PTA連合会活動参加者数【人】	1,802	1,500	1,832
公民館運営審議会運営事務	147	運営審議会での意見があった案件数【件】	8	7	7
公民館社会教育指導員活動事業	2,459	公民館講座受講者数(くわな市民大学を含む。) (城東公民館を除く。【人】	31,401	31,461	30,006
公民館一般管理運営事業	37,386	施設利用者数(城東公民館を除く。【人】	244,490	242,894	250,792
公民館講座開設事業	15,096	公民館講座受講者数(城東公民館を除く。【人】	28,199	27,904	26,582
		くわな市民大学受講者数【人】	3,202	3,557	3,424
図書館協議会運営事務	496	意見の提言数【件】	32	35	28
		審査対象の図書冊数【冊】	414	419	392
図書館一般管理運営事業	40,916	3館(中央・長島・多度)の年間延べ貸出冊数【冊】	1,230,340	1,214,244	1,286,317
		年間延べ来館者数【人】	928,365	890,128	850,669
図書充実事業	12,832	ふるさと多度文学館蔵書数【冊】	107,339	111,936	112,832
		長島輪中図書館蔵書数【冊】	99,867	103,401	107,377
地域映像情報活用事業	534	総合学習を受けた年間授業生徒数【人】	525	620	676
長島ふれあい学習館教室開設事業	3,924	教室申込者数【人】	767	699	901
		プラネタリウム観覧者数【人】	2,824	2,571	2,837
合計	118,218				

## 事務事業一覧

基本事業名(スポーツ活動の充実)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
スポーツ推進委員活動事業	2,887	ニュースポーツ教室等参加者数【人】	8,825	8,837	8,664
スポーツ推進審議会運営事務	0	審議会審議案件数【件】	2	1	0
スポーツ大会等運営事業	4,094	スポーツ大会参加者数【人】	6,957	6,379	6,495
高齢者スポーツ普及活動事業	140	高齢者スポーツ教室の参加者数【人】	243	198	125
大運動会運営事業	3,820	多度参加者数【人】	6,139	6,386	6,376
		長島参加者数【人】	6,212	6,694	天候不良のため中止
美し国三重市町対抗駅伝大会参加事業	934	選手選考会参加者数【人】	53	25	30
合計	11,875				

## 事務事業一覧

基本事業名(スポーツ組織の育成と充実)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
体育協会運営事業費	8,112	桑名市体育協会加盟団体の構成員数【人】	15,211	15,103	14,720
スポーツ少年団育成事業	6,249	スポーツ少年団員数【人】	1,531	1,489	1,488
みえスポーツフェスティバル参加補助事業	486	みえスポーツフェスティバル参加者数【人】	481	313	353
総合型地域スポーツクラブ育成事業	900	総合型地域スポーツクラブ数(設立数)【箇所】	2	2	3
合計	15,747				

## 事務事業一覧

基本事業名(文化・芸術活動の推進)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
市民展事業	3,624	出品数【件】	263	259	274
市民芸術文化祭事業	2,700	市民芸術文化祭来場者数【人】	7,095	7,178	5,229
子ども文化祭事業	1,750	子ども文化祭来場者数【人】	3,965	3,966	4,496
文化団体補助事業	1,200	来場者数【人】	3,058	6,461	4,918
合計	9,274				

## 事務事業一覧

基本事業名(文化財の調査・保存)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
文化財保護審議会運営事務	511	審議案件【件】	2	2	0
文化財保存事業	18,710	文化財の指定件数【件】	1	3	0
埋蔵文化財発掘調査事業	6,682	発掘調査完了率【%】	93.0	76.0	100
埋蔵文化財整理所施設管理運営事業	1,540	埋蔵文化財発掘調査によって得られた諸資料調査報告件数【件】	50	30	50
合計	27,443				



## 事務事業一覧

基本事業名(文化財の活用)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
文化財保護普及事業	14,197	イベント参加者数【人】	950	902	1,071
文化財総合データ管理システム事業	3,096	HPアクセス数【件】	478,547	409,892	406,761
六華苑施設管理運営代行業務委託事業	22,407	来館者数【人】	46,191	49,582	40,805
博物館資料保存事業	2,657	修繕完了率【%】	93.3	100	40.0
合計	42,357				

## 事務事業一覧

基本事業名(人権・同和教育内容の充実)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
人権・同和教育推進事業	1,464	研究大会・研究会・研修会の開催運営回数【回】	79	80	83
		研究大会・研究会・研修会の参加人数【人】	907	926	916
人権・同和教育指導体制充実事業	4,061	人権フォーラム前後校内での話し合いを実施した小・中学校数の割合【%】	100	100	100
同和教育副読本「あゆみ」編集配付事業	435	授業で活用された学校数【校】	36	36	35
		同和教育副読本「あゆみ」を活用した割合【%】	100	100	97
合計	5,960				

## 事務事業一覧

基本事業名(人権・同和教育推進体制の充実)

事務事業名	平成26年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
人権・同和教育啓発推進事業	1,155	人権に関する作文、ポスター、標語の応募数【件】	6,547	7,371	6,728
人権・同和教育学習活動推進事業	2,160	保護者や地域の人を含めた話合いの実施回数【回】	6	7	7
		人権団体等の連携により講座等の活動をしている中学校ブロックの割合【%】	85.7	100	100
人権教育基本方針策定事業	2,598	桑名市人権教育基本方針周知研修会参加者の割合【%】	—	—	25.0
人権教育研究大会等参加事業	146	参加報告数(事務局分)【件】	7.0	12.0	11.0
教育集会所運営委員会運営事務	181	委員会で意見があった案件率【%】	100	100	100
教育集会所施設管理運営事業	6,020	施設(教室)利用者数【人】	11,347	11,429	14,022
教育集会所施設維持補修事業	1,311	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
教育集会所人権学習事業	5,668	小中高校生教室参加者数【人】	8,589	8,642	10,627
		一般市民対象・一般教養講座参加者数【人】	2,758	1,988	2,115
教育集会所人権啓発活動事業	2,513	啓発物品配布率【%】	100	100	100
		人権・同和問題学習会(長島)参加者数【人】	87	93	94
市民人権生活福祉講座事業	198	講座受講者数【人】	207	201	269
合計	21,950				

## 1 総括意見

平成 27 年度(平成 26 年度事業)の桑名市教育委員会の権限に属する教育行政事務の点検評価報告書とその具体的説明に基づきながら概括的な意見を提示する。

- 1 教育委員会が、桑名市総合計画に基づき事業推進して 8 年、後期基本計画が策定されてから 3 年になる。今年度も「豊かな人間性を育む人づくり」、「生涯学習を通しての自己実現」、「個性豊かな文化の創造」、「人権が尊重されるまちづくりの推進」の 4 項に整理されている。それぞれの項において、年次的に成果が明確に表れていると判断できる。

このことは、教育委員会と事務局及び関係機関とが連携し、活発な事業展開がなされたことを物語るものであり高く評価できる。

- 2 昨年度から報告書の形式も「施策評価シート」という形に改善され、施策体系・施策の現状・成果と分析・今後の方向性という形で整理され、必要に応じて図表や写真が掲載されている。教育委員会の活動状況や事務事業・決算額一覧についても詳細に報告されていて、一層見やすく市民にとって親しみやすい報告書になっている。

- 3 各施策の成果と分析を行うために目標値が設定されている。目標値と実績の関係、目標値設定の客観的根拠が不明瞭であれば、成果に対する評価も変わり得るものだと考えられる。可能なかぎりエビデンス(根拠)を提示されると評価も一層明確になる。教育効果というものは短期間で現れるものでなく、すべてが数値で判断できるものでもないことは言うまでもない。また、長期的・中期的目標と単年度目標とが同じ尺度で測られるものでなく、長中期的事業については進捗状況を、単年度事業については達成度を明らかにするためのものだと思う。

報告書を作成するにあたり、一定の形式や統一性が必要なことは十分理解できるが、年度の成果を確認し合い、次年度に向けての具体的課題を明確にするための指標と捉えるべきだということを強調しておきたい。

- 4 昨今、各地で世間を震撼させる重大事件が報道されており、青少年もその例外ではない。教育の原点は家庭にあると言われるが、学校や地域の教育力が不可欠であることも言うまでもない。スクールサポーターの登録数が年々増加し、街頭補導回数も前年を大幅に上回っている点からみて、学校評議員・地域・各関係機関との連携が図られ、レイマンコントロール(市民の意向やニーズを反映すること)が十分機能していることの証左であると考えられる。

- 5 桑名市総合計画策定から 8 年が経過し、平成 27 年度からは新しい総合計画がスタートしている。これまでの事業展開により、公立幼稚園再編の見通しも明らかにされ、小中学校の安全管理対策の一つである耐震化事業も予定どおり完了し、長期スパンの事業である諸戸家住宅・庭園の保存修理工事の進捗状況もほぼ予定どおりであることからみて、総合計画の実現に向けて尽力されていると判断できる。

桑名市は、伝統的な歴史や文化を有する街である。今後も引き続きその保存と伝承に全力を尽さ

れ、市民の郷土愛をさらに醸成していただきたい。

以上、桑名市教育委員会の事務執行状況の点検・評価報告書について概括的な意見を述べた。

## 2 個別の意見

引き続き、項目ごとに若干の点について言及する。

### 豊かな人間性を育む人づくり

#### 1 学校教育

##### (1) 確かな学力の育成

- 「授業の分かりやすさ」を診断する教科として、算数・数学の授業評価を指標とされている。全国との比較においても3年連続で高い数値結果が出ていることは望ましい。個に応じたきめ細かい指導を意識的に展開されてきた成果だと思われる。紙面の都合も考えられるが、可能ならば上記教科だけでなく国語のデータも知りたいと思う市民もいるだろう。

「学級満足度調査」においては、目標値を下回っているだけでなく、前年比でも数値が下がっており、学級生活の充実の方策を検討されたい。

学級づくりが授業づくりの基礎を成すとの観点で、前年度の総括から改善されたり、講師を招聘し、研修会が行われたことが良い結果をもたらしたものと思われる。グラフにみられる中学の学級生活不満足群の特徴的な内容を分析すれば、さらに問題点が明らかになり、改善策が見い出されるかもしれない。

子ども達の学力の育成にとって、教師の授業力が問われることは言うまでもない。教師の教育力向上と人材育成については、今後も多面的な取組が計画されることと思われる。時間的な関係から研修会が夏期に集中せざるを得ないことは理解できる。年間1回の研修会であるが、各校においては日常的に研修が行われているものと想像する。

特別支援を要する児童生徒が増加し、多様化している現状に鑑み、目標値に対する実績の評価について難しい側面がある。特別支援教育については、個々への対応も様々で複雑な要素が内包されているため、実践・経験が要求される。中堅・若手教員への継続的な研修と子どもの特性に応じた指導の工夫等、より一層研鑽を積む必要があるだろう。

##### (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育

- 小学校においてスクールカウンセラーが増員され、子ども達の不安や悩みに対応できる体制が強化されたものと考えられる。実績値を見て成果が上がったと判断できるような指標の設定について検討いただきたい。

心の教育相談員の活用について、年間の相談件数の目標値と実績が示されているが、合わせて人数表示をされるともっと分かりやすくなると思う。

「教育相談の利用」、「心の教室相談員の活用」については、成果がより分かりやすくなるよう、指標の設定のあり方を検討されたい。

栄養教諭を中心とした教職員の食育指導の向上のため研修講座が開催され、例年予定どおりの参加者があり熱心さが窺えるが、さらに多くの教職員が参加されることが望ましい。地場産物・郷土の食材を扱ったり、生産現場への見学等も子ども達の食育への関心を高めるうえで有意義な実践であると思う。

食育の要は、家庭での食の在り方が改善されているかどうかであり、保護者への指導や研修会への呼びかけは今後も欠かせないだろう。

### (3) 開かれた特色ある学校づくり

- スクールサポーターの登録人数が年ごとに増加していることは、学校や園に対する支援の度合いを表しているものと考えられる。産業や文化など地域の特性を生かした活動には、スクールサポーターは不可欠な存在だと思う。今後もこの事業への協力者を増やす努力をし、定着・継続を願う。人数が増えれば増えるほど意見等の調整のための時間も必要になるかもしれない。

年間3回の割合で評議委員会を開催することを指標とされている。学校の自己評価と学校評議員との評価がなされているようである。評議員会は、地域の方から第三者的な立場に立った客観的な意見を聞く貴重な機会であり、評価が一致する場合もあれば、異なる場合もあると推測される。この点が外部評価の意義深いところであり、大切なことだと思う。

### (4) 就学前教育の充実

- 幼稚園教諭や保育士は多忙に加え、勤務形態も異なり、研修会を開催する際にも日程調整にご苦労されているものと思う。その配慮があったうえで研修会への参加者が若干とはいえ、増えたことは評価できる。物理的な問題もあるが、幼・保・小との交流も子ども達の成長にとっては大切である。

「桑名市就学前教育検討委員会」の答申について協議が行われて8年になる。長い時間をかけ公立幼稚園の再編案について一定の方向性が示されたことに対し、関係者の方々に深甚なる敬意を表したいと思う。

今後も新たな問題や課題に直面することが予想されるが、その整備のためご努力いただくよう切願する。



(5) 安全で快適な教育環境の整備

- 防犯対策や環境改善対策、地震・津波対策等の安全対策が計画どおり推進されていることは、施策の取組状況の説明からよく理解できる。多額な費用を伴う事業であり予算との兼ね合いも考えられるが、計画的に推進していただきたい。

地震・津波対策をはじめとし、老朽化した設備の修繕など複雑・多岐にわたる事業であるだけに一律的な指標の表し方や目標設定について苦慮されていることと思う。

学校や園に子どもを在籍させている保護者は、上記の計画や進捗状況について知らされていると思う。一般市民への広報として考える場合、達成率がもう少し分かりやすくなるよう一考されたい。

2 青少年健全育成

(1) 青少年育成活動の充実

- 市民会議主催事業の参加者数 2 万人という数字をどう解釈すべきなのか。青少年育成団体やその他関係団体への活動支援や研修会等への働きかけの必要性は今後も継続されると思う。

「放課後子ども教室」が不可欠な事業とするならば、現時点における課題や問題点をさらに明らかにし、事業実施に向けて実行可能な計画を立案されたい。

(2) 青少年の非行防止・保護体制の充実

- 補導委員や関係機関の方々の積極的な協力のもと、際立った問題行動がみられないことは実に喜ばしい。

街頭補導に携わった人数は昨年よりも 70 名ほど増加しており、街頭補導回数も昨年の 45% 増となっている。この回数増については、1 回あたりの補導参加人数を減らすかわりに実施回数を増やしたことによるものだとの説明であった。特に問題がなければ実施回数が多い方が望ましい結果につながるであろう。

年間の街頭補導人数は、平成 23 年当時と比べれば 3 分の 1 ほどに減少している。環境等の条件の変化も考えられるが、何よりもこの事業に関係された方々に深謝申し上げたい。差し支えない範囲で、補導内容の概略を明らかにし、関係者や保護者への協力要請の一助とされたい。

今年度は、青少年相談件数が際立って多くみえる。相談内容にも早期解決が可能なものとそうでないものがあるように思われる。今後、社会変化とともに青少年保護に関わる事業も重要な領域になる。

## 1 生涯学習

### (1) 生涯学習推進体制の整備

- 公民館を活用した講座受講者数は、毎年大きな変動はなく推移している。このことから、講座内容が趣味・教養にとどまらず、現代的課題や市民の関心や期待に応えたものになっていると判断できる。今後も市民のニーズを的確に把握し、タイムリーな講座の提供に努められたい。

全国的に本を読まない子ども達が増えているという。映像文化の進展に伴い、年齢を問わず活字離れの傾向がみられる。

桑名市においては、今年も貸出冊数が128万冊を上回っている。この数値は、同規模の都市の全国平均を大きく上回るものであり、喜ばしい。ただ、利用者層や来館者数が分からないため、一人あたりの来館回数や貸出冊数が把握しづらい。貸出し総冊数の表示とともに併記されるとさらに興味深くなる。

## 2 生涯スポーツ

### (1) スポーツ活動の充実

- ニュースポーツへの参加者が意外と多い。年齢層は分からないが、スポーツ推進委員の努力によるところが大きいと思われる。どの地域でも課題となるのは施設・設備の問題である。

シニアスポーツ教室は減少傾向にあり、参加しやすい魅力あるスポーツ教室の設置が望まれる。

スポーツ大会への参加者数は、市のスポーツ大会や市民体育大会等も含めた数値で示した方が全体的な活動の様子が把握できるであろう。

### (2) スポーツ組織の育成と充実

- スポーツクラブにしてもスポーツ少年団にしても、指導者や活動施設、また、財源の問題もあり、ご苦労も多いことと思われる。

健康体操、ミニバスケットボールや卓球などは参加しやすく思われる。地域ごとの仲間づくりの場として理解されるとよい。

## 1 文化・芸術

### (1) 文化・芸術活動の推進

- 市民芸術文化祭・市民展・子ども文化祭、いずれも企画力、宣伝活動が問われる事業であるが、特に出品の内容により各年度の来場者の増減があるのではないかと推測する。高齢化社会の中では、受動的な参加よりもむしろ積極的に活動してみたいと考えている人が少なからずいるように思われる。子ども達の文化へのふれあい、取組については、目標値を上回っており評価できる。

いずれの事業も文化・芸術活動に勤しむ側とそれを鑑賞する側との両者があいまって文化・芸術は創造されるという観点から、来場者数や出展数が指標となっていることは理解できる。市民展については、来場者数も指標として考えられるとよい。

桑名市総合計画の根幹をなす「こころ豊かな文化の薫るまちづくり」を目指しながら、市民が一体となって活躍されてきたことはよく理解できる。桑名市には、古い歴史・伝統・文化がある。それらを継承しながら新しい文化を創造し、郷土の文化・芸術を誇れるまちづくりに今後も取り組んでいただきたい。

## 2 文化財

### (1) 文化財の調査・保存

桑名市には、桑名城下町遺跡をはじめとした貴重な歴史的遺産がある。発掘調査事業も毎年、計画的に事業が進められていることはよく理解できる。この事業も予算や工事内容との関係から、その計画性や目標設定には苦慮されていることと思う。

長期計画に基づく国の補助事業としての諸戸家住宅と諸戸氏庭園の整備事業も、着工から7年を経過したと考えると、計画の上では事業完了まであと4年となる。整備工事が行われる過程で予想外に時間を要する工事もあり、事業計画どおりに実施するには難しい側面がある。

指定文化財が増えれば、市民への周知にもなり、文化財保護の意識が高まるのではないか。しかし、全国各地の様子をみても、文化に対する予算措置は多くない。先人の積み上げた貴重な文化を将来にわたって伝承していく意識の問題と関係がありそうだ。国や県からのさらなる補助的支援が望まれる。その熱意を伝えるためにも、市民の方々に事業のねらいや価値について理解していただき、大きな支援をしていただけることを希望する。

### (2) 文化財の活用

十六夜コンサートの入場者数が経年的に示されているが、催し物の内容や天候と深い関わ

りがあると思う。過年度の催し物の内容と入場者数を比較すれば、特徴的な傾向が見い出されるかもしれない。

「イヌナシ自生地」の保全活動には、毎年ほぼ予定どおりの参加者がある。自然環境が薄れていく中で、小中学生が数多く自然体験できることは極めて教育的で意義深い。イヌナシの開花する時期に訪れたことのある人は、保全活動に参加したことを一層実感できるであろう。

郷土の歴史遺産を活用した「出張歴史講座」は大変意義深い。歴史や文化を学ぶことは、郷土愛を育むことになり、今後も参加者に望まれるようなメニューの提示と宣伝活動に努力いただきたい。

## 人権が尊重されるまちづくりの推進

### 1 人権・同和教育

#### (1) 人権・同和教育内容の充実

今後の方向性で示されているように、子どもの人権意識は大人の影響を受けることが少なからずある。そういった脈絡から、地域や保護者層の拡大に尽力されるとともに、具体的事案に基づきながら、意識改革の道筋についても検討を加えられたい。

人権講演会の参加者は、内容により増減があることは経験的に把握できる。そのためにも内容の吟味は大切である。毎年、担当校が代わるようであれば、引き継ぎ事項を明確にしておかなければならないであろう。

#### (2) 人権・同和教育推進体制の充実

若手教員や経験の少ない教員が増加する中で、研修会や実践指導は喫緊の課題である。研修を受講すべき教員の数は、毎年一定ではないと思う。目標値の設定や回数も含め、初期の狙いを達成するための方策を検討されたい。

過去の受講者が各校で研修主任や推進委員担当者として活動されたり、実践交流が行われていることは、さらに認識を深化させるとともに、新たな課題を見出す機会ともなっており、講座開設の必要性がよく理解できる。

講座内容や開催時期が受講者数を左右することは記述どおりだと思う。リピーターが多いという指摘は、講座そのものに意義を見出している教員が多くいると解釈できる。

人権推進リーダーから各校の教職員へ、そして子ども達へ広がるような施策の展開が望まれる。